

令和5年度

研究紀要



第20号

京都市立中学校教育研究会研究主任部会

【目 次】

1. 目 次

2. 役員・組織・活動の記録

3. 各支部の活動報告

(1) 北・上京	高橋公美子 (衣笠中)	(2) 中京	合田 智栄 (朱雀中)
(3) 下京・南・東山	月城 正登 (東山泉小中)	(4) 左京	加納 由美 (洛北中)
(5) 山科・醍醐	亀井 隆次 (栗陵中)	(6) 右京	永田 慶 (梅津中)
(7) 西京	森岡 恵美 (樫原中)	(8) 伏見	望月 悟 (神川中)

4. 第1回全市研究主任研修会 (4月17日)

講義「校内研究の推進と充実を図るために」

総合教育センター 指導主事 東谷 祐子

支部内協議・交流 「今年度の校内研究の構想と校内研究の活性化に向けて」

グループ協議

5. 第2回全市研究主任会 (10月30日)

講演「主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善 - 指導と評価の一体化の視点から考える - 」

講師：京都市総合教育センター指導室長 東良 雅人

グループ協議

6. 第3回全市研究主任会 (1月30日)

【各校オンライン実施】

実践発表① 「義務教育学校の特色を生かした資質・能力の育成について」

開晴小中学校 教諭 元氏 宏輔

実践発表② 「校内研修の進め方 ～教育目標「自律・貢献・志」実現に向けて～」

京都一、すべての子どもが夢中になって学び合う授業づくり

八条中学校 教諭 桶作 浩子

グループ協議

7. (1) 会則

(2) 研究主任一覧表

【役員・組織・活動の記録】

事務局：小栗栖中学校

1. 役員及び組織

部会長	今津 敏一（小栗栖中）		
副部会長	平井 真広（西陵中）	副部会長	野村 昌孝（開晴小中）
幹事長	中島 朋哉（向島東中）	副幹事長	越田 友喜（向島秀蓮小中）
庶務	和田 正裕（下京中）	会計	元氏 宏輔（開晴小中）
北・上京	高橋公美子（衣笠中）	中京	合田 智栄（朱雀中）
下京・南・東山	月城 正登（東山泉小中）	左京	加納 由美（洛北中）
山科・醍醐	亀井 隆次（栗陵中）	右京	永田 慶（梅津中）
西京	森岡 恵美（檜原中）	伏見	望月 悟（神川中）
総合教育C	東谷 祐子 指導主事	学校指導課	堀田 和宏 首席指導主事
総合教育C	水谷 佳代 指導主事	学校指導課	安居 昌行 参与

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

◇各支部の主任会が実りあるものになるようにするために

・全市研修のための企画 ・全市の情報収集→発信→各支部へ→各校へ ・テーマに関連した取組の情報交換

3. 活動の記録

4月10日（月） 役員会（第1回）

4月17日（月） 全市研究主任研修会（第1回）及び研究主任部会総会

○講義「校内研究の推進と充実を図るために」

総合教育センター 指導主事 東谷 祐子

○グループ協議

5月 8日（月） 第1回幹事会

5月15日（月） 第1回支部研究主任研修会

6月12日（月） 第2回幹事会

6月19日（月） 第2回支部研究主任研修会

9月12日（火） 第3回幹事会

9月25日（月） 第3回支部研究主任研修会

- 10月16日(月) 第4回支部研究主任研修会
 10月30日(月) 全市研究主任研修会(第2回) 研究会主催
 ○講義「主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善
 ー指導と評価の一体化の視点から考えるー」
 京都市総合教育センター指導室長 東良 雅人
- グループ協議
- 11月27日(月) 第5回支部研究主任研修会
 12月4日(月) 第4回幹事会
- 1月22日(月) 第6回支部研究主任研修会
- 1月29日(月) 全市研究主任研修会(第3回) 研究会・総教C共催
 ○実践発表1「義務教育学校の特色を生かした資質・能力の育成について」
 京都市立開晴小中学校 教諭 元氏 宏輔
 ○実践発表2「校内研究の進め方」
 京都市立八条中学校 教諭 桶作 浩子
- グループ協議
- 2月5日(月) 第5回幹事会

4. 成果・および今後の課題

○全市研究主任会について

第2回では、東良雅人先生より指導と評価の一体化について講義いただいた。3観点での評価、とくに「主体的に学習に取り組む態度」の観点に現場での困りの声が多い中で、学びの多い内容であった。講義では、評価以前に、生きる力(資質・能力)が育まれる授業(主体的・対話的で深い学び)が実現されていることが大切であり、その授業に対する見とりを充実させることが適切な評価につながるという内容は、改めて単元構想での指導と評価計画の重要性を考える機会となった。

第3回の実践報告では、小中9年間の視点から資質・能力を育成する校内の研究体制(開晴小中学校)や、ICTを活用した授業改善に学校体制で取り組んだ研究報告(八条中学校)など、各校の研究主任の資質・能力の向上、また知見を広げる上で大変質の高い提案であった。また、グループ協議では、各校の取組を交流して自校の参考にしたり、研究主任として悩んでいることについて互いに助言しあえたりと、日頃の実践を振り返り、次の見通しを立てる有意義な時間にできた。

課題として、初任の研究主任の先生も多く、講義の内容が難しかったという意見もあり、研究主任としての資質・能力の向上の必要性も見られた。

○支部授業研修会について

令和5年度は、全ての支部を集合で実施した。昨年度の課題(学びの見取りに対する教員側の質)に対して、事前協議を入れ、授業者と参観者の間で、提案される授業の共通理解を図った。また、事後協議の方法も、生徒の学びを見取することに重点を置いた方法で全市統一した形を提案することで、生徒の学びの事実を根拠とした建設的な協議が行えることを目指した。成果は、事後アンケートの結果からも、高い肯定評価値が見られた。課題は、育成学級の方法として見直す必要があることと、支部研に参加する教員の意識(師範授業が提案されるわけではない)がある。各支部での伝達と共通理解が必要であると感じた。また、実技教科(体育以外)をブロックに分けて実施したことについては、おおむね問題なく実施された。

○その他

<評価について>

各校3観点での評価の実践が進められ、各支部においても情報の共有が進められた。しかし、各観点の評価方法(とくに主体的に学習に取り組む態度)については、全市的な情報共有と見直し、更なる研究の推進が次年度以降も必要であると感じる。

<GIGA スクール構想について>

今年度、GIGA 端末の活用について、生徒が自ら選択し主体的に活用することを目指すステージに入ったが、全市的に進捗状況を共有する場面が少なかった。支部研での提案も含めて端末の有効な活用の授業例を共有することは次年度も必要である。

【北・上京支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	小林 匡子	上京中
担当指導主事	山野 斉道	総合教育センター
支部幹事	高橋 公美子	衣笠中

加茂川中	西浦 誠人	上京中	月城 優紀
西賀茂中	信夫 規子	嘉楽中	須崎 徳馬
旭丘中	井上 千尋	二条中	北川 晴香
衣笠中	高橋 公美子	北総合支援	巖 早紀
烏丸中	木村 一平		

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して深い学びにつなげる～

3. 今年度の活動内容

	実施日	内容
第1回	5月29日(月)	1. 研究主任総会の内容承認、幹事会の伝達 2. 本年度支部の研究テーマ決定、支部研究授業の実施方法等の検討 3. GIGA スクール構想の進捗状況交流等
第2回	6月19日(月)	1. 幹事会の伝達 2. GIGA スクール構想の進捗状況交流 3. 本年度支部研究テーマに沿った支部研究授業実施方法等の決定
第3回	9月25日(月)	1. 夏季校内研修の情報交換 2. 授業研究会(9月6日実施分)の振り返り
第4回	10月16日(月)	1. 今年度前半を振り返っての意見交流 2. 各校の研修会や研究について 3. その他情報交換
第5回	11月20日(月)	1. 各校の研修会や研究について 2. 各校での困りごとについて 3. その他情報交換
第6回	1月22日(月)	1. 「目指す生徒像」に向かう校内研究のPDCAを通じた振り返り →一年間の子どもの姿の変容とそれを実現した研究主任の仕掛け 3. 研究紀要の概要共有 4. 次年度の北上支部の研究テーマについて

会場校：上京中学校

4. 今年度の総括

(1) 研究テーマに沿った研究

◇研究テーマの共通理解

- ・「個別最適」や「協働的な学び」を深い学びにつなげる の解釈について

→「一人一台のタブレットを利用して、個人が主体的に課題について考えることや、個人がノートやワークシートに考えをまとめたり、個に応じた課題を準備し、取り組ませたりする学び」を「自分と他人が対話を通して意見交流し、高め合うこと」をし、再び「個人で学びや学習のまとめをしたり、学習の前後で自分がどう変わったかを確認させる」などをして、50分の授業を計画する ということ。

→授業者は、生徒にタブレットを時代の流れを意識し、使用させることが望ましいが、必ずしも使わせないといけないということではない。

◇研修会の充実に向けて環境整備

- ・模造紙や付箋紙を使用していた研修方式ではなく、Teams のホワイトボード機能を用いた研修会へと移行するため、夏季休業中に、北上支部の教師が中京支部で経験された先生に講習してもらう機会を設けた。
- ・全員がタブレット端末を持参・活用しての支部研ということで、北上で足並み揃えるため、各校で研究主任が同じ内容の伝達研修を行えるよう、当日へ向けて綿密に打ち合わせと確認を行った。

(2) 支部授業研究会

◇今年度の振り返り

- ・ネットの不具合や機能の限界のため、英語の協議に支障があった
- ・道徳・技術・家庭・育成 以外の教科は Teams のホワイトボード機能を用いた研修会を行えた。
- ・時間を確保したものの、「観察記録をタブレットの付箋に打ち込むこと」に時間がかかる
- ・今までの付箋を貼りながら話をする協議に比べると、手元での活動はするものの、協議時間が短い。
- ・事務系タブレットの持ち出しについて、管理が難しいのではないかと
- ・生徒の変容を見るために、そのグループの近くに移動する。
それに伴い、生徒が黒板を見ようとしても、教師がその障がいとなる場合があった。

◇来年度に向けて

- ・具体的なマニュアルを発信する（集合 or 配信、子ども主体、時、人、会場、テーマ、共通資料など）
- ・支部の研究主任が伝達の漏れをなくすために Teams や協議資料などを徹底して確認する
- ・「教師も生徒も ICT を活用する」という学ぶ姿勢を大切にしようという思いから、今回の「Teams を使ったホワイトボード機能」を使った支部研を行った。その思いは次年度も継続させるとともに、色々な意見に関しては前向きに捉え、協議していく。

(3) G I G A スクール構想推進

◇各校での研修や取組

- ・OneNote の活用（教科・生徒にフィードバックするやりとりが容易にできる、データもエクセル変換可能のため時短）

◇各校の抱えている困り

- ・ICT 支援員との連携
- ・外国籍の生徒への対応（日本語指導の先生との連携）
- ・校内授業週間の方法
- ・小中合同の取り組み（中学校主導の提案となる場合が多く、少し孤独を感じる）
- ・総合学習の発表会（内容や形式）
- ・ドリルパークを教師側が有効に活用させようとなっていない
- ・アンケートの結果・分析の生かし方

(4) その他 活動全般について

- ・支部幹事については「1. 組織・役員」に沿って輪番とし、令和6年度は烏丸中学校。
ただし、研究主任一年目の先生が担当になる場合は、その限りではない。
- ・メールや Teams を使ったの諸連絡、各校の研修資料等の共有を行うことで、より円滑な支部としての研究を進める。

【中京支部 研究主任会】

1. 役員及び組織

担当校長	藤 井 泉	西ノ京中
担当指導主事	西 川 知 也	総合教育センター
支部幹事	合 田 智 栄	朱雀中

北野中	土 田 眞 司	朱雀中	合 田 智 栄
京都御池中	岡 田 智代子	中京中	和 田 香 織
松原中	矢野 良地・浅田 晃浩	西ノ京中	加 藤 葉
西京附属中	田 中 正 仁	洛風中	渡 辺 千香子

◎幹事校の順番

5年度	朱雀中	6年度	中京中	7年度	松原中
8年度	西京附属中	9年度	洛風中	10年度	京都御池中
11年度	西ノ京中	12年度	北野中	13年度	朱雀中

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』『協働的な学び』を意識して～

3. 活動の記録

回	月日(曜)	内容	会場校
第1回	5/15(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部研究テーマの確認 各校取組の情報交換 学習指導/評価計画など・GIGA スクール構想推進の取組 その他諸連絡 (西川主事より)年次研修への協力・SMART PORTAL 活用・教科主任研修会を活用した校内研修・副読本の活用・主体的態度の評価方法 	西ノ京中学校
第2回	6/19(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研修会(日程・研修内容の詳細・研究協議のもち方) 各校取組の情報交換 夏季研修計画など (西川主事より)学習指導案のひな型・教科等主任研修会の校内周知 校内夏季研修会(PDCA シート活用)・校内OJT 推進に向けて 	朱雀中学校
自主研修	7/4(火)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研修会に向けての模擬授業(中京中・和田先生 道徳) 授業の見取り方の確認 研究協議の進め方の確認 	中京中学校
第3回	9/25(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研修会(研修の実施方法・申し合わせ事項の確認など) 7月道徳(中京中・和田先生)の授業研の振り返り 各校取組の情報交換 夏季校内研修会や校内授業研 (西川主事より)夏季研修を振り返って・支部授業研究会・全国学力学習状況調査結果の有効活用・校内OJT の推進に向けて 	京都御池 中学校
第4回	11/6(月)	<ul style="list-style-type: none"> 支部授業研修会の振り返り 成果と課題、アンケート結果を受けて 各校取組の情報交換 校内授業研など (西川主事より)支部授業研究会の振り返り(子どもに焦点をあてた研修のよさ) 	朱雀中学校

第5回	11/27(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・支部授業研集会（道徳）について ・各校取組の情報交換 PDCA シートなど ・（西川主事より）研修についてのアドバイス 	中京中学校
第6回	1/30(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・中京支部授業研究会のふり返り ・中京支部・研究紀要の内容の確認 ・次年度の支部研究会に向けての確認 ・各校取組の情報交換 研究主任としての取組・来年度に向けて （PDCA シート活用） ・（西川主事より）今年度を振り返って・『『目指す生徒像』に向かう 校内研究の PDCA・全国学力学習状況調査の活用・令和6年度に向けて 	北野中学校

4. 今年度の総括と次年度に向けて（令和5年度）

【成果】

- ・定例会では、各校の取組や困りごとを共有することができた。
- ・GIGA の取組や研修会の持ち方、そして全国学力調査の分析等について、各校の取組や現状などを知ることができ、自校での取組に活かすことができた。
- ・今年度授業研究会の協議の持ち方が変わり、その流れを支部研究主任会で確認ができてよかった。またその新しい協議を、授業研究会の前に支部内での公開授業で実施することができ、出てきた疑問や意見などを踏まえて自校で提案できたことも、とてもありがたかった。

【課題】

- ・学校事情により、研究を積極的に進めることが難しかった。教員の現状とどう折り合いをつけるかがカギとなっている。
- ・研修の時間の確保が難しい。
- ・校内授業研や小中合同授業研においても、“教員全員”の授業改善につながるようなしかけが必要である。

【次年度に向けて】

- ・若手研修など中京支部で共有できれば、負担感を小さくすることができ、お互いのしんどさを取り除くことができるのではないかな。
- ・多くの研修が集合研修の形に戻りつつあるが、集合・ハイブリット・リモート研修のメリット・デメリットを再度見直し、目的に合った、より効果的な授業研修が行えるように考えていきたい。

【下京・南・東山支部 研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	野村 昌孝	開晴小中
	川島 浩明	九条中
担当指導主事	水谷 佳代	総合教育センター
支部幹事	月城 正登	東山泉小中

下京中	和田 正裕	洛南中	福森 徹也
七条中	藤原 有佐	凌風小中	池上 暁
洛友中	城戸 美乃	久世中	種子 勇太
八条中	桶作 浩子	開晴小中	元氏 宏輔
九条中	黒木 巧	東山泉小中	月城 正登

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」 ～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

3. 今年度の活動内容

	日時	会場	活動内容
第1回	4月17日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究授業について ・各校の研究方針交流 ・活動予定
第2回	6月19日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究授業について ・研究会アンケートについて ・情報交換
第3回	9月25日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究授業の振り返り ・小中連携の活性化に向けての取組の共有
第4回	10月16日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携活性化に向けての取組の共有 ・情報交換
第5回	11月27日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会ソフトの研修について ・学習確認プログラムの分析について ・研究の大切さをどう伝えていくか
第6回	1月22日(月)	洛友中	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の研究の総括と情報交換 ・次年度に向けて

4. 今年度の総括

今年度新しく研究主任をされる方も多く、情報交換をすることで日々の取組を見直す良い機会となった。

本支部は義務教育学校が多く、小中連携について様々な取組がなされている。小中一貫ではない中学校との比較から、どのように連携を図っていくのかを具体的に話し合うことができた。小学校と中学校との文化の違いをいかに埋めていくか。毎回議論になった。

次年度に向けて、3つの提案があった。

1つ目、支部共通で取り組めるテーマを決めて検証ができると、毎回の支部研究主任会がより実りあるものになる。

2つ目、支部の teams に、職員研修や研究主任の提案資料をアップロードして、共有できる状態にする。

3つ目、各学校での取組における、成果と課題を共有できるようにする。

以上、次年度に引き継いでいく。

【左京支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	深尾 彰	高野中
担当指導主事	東谷 祐子	総合教育センター
支部幹事	加納 由美	洛北中

岡崎中	森川 美保	修学院中	佐藤 優行
高野中	高橋 俊行	洛北中	加納 由美
下鴨中	山崎 遥	大原小中	丸田 信宏
近衛中	岡部 純	花背小中	坂本 旭

支部幹事については輪番制で行う

21. 修学院→22. 近衛→23. 洛北→24. 高野→25. 花背→26. 下鴨→27. 大原→28. 岡崎→ 29. 修学院→

※ただし、次年度候補（高野中）の研究主任が今年度から継続できなければ、1年飛ばす。次々年度以降の今年度と継続の研究主任の学校が担当する。

2. 研究テーマ

「思考力、判断力、表現力等を育成する授業づくり」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識して～

3. 今年度の活動内容

	日時	会場	活動内容
第1回	5月15日(月)	高野中	・支部授業研修「研究テーマ」について
第2回	6月19日(月)	高野中	・支部授業研修会の形式の決定
第3回	9月26日(火)	高野中	・支部授業研修会に向けての共通理解 ・協議方法の決定
	10月19日(木)		・左京支部授業研修会
第4回	11月6日(月)	高野中	・支部授業研修会の反省と送り ・夏の研修会の報告今後の研修予定
第5回	11月27日(月)	高野中	・PDCAシートの交流 ・支部研修会について
第6回	1月22日(月)	高野中	・今年度の総括、次年度に向けて

4. 今年度の総括と次年度に向けて

1) 左京支部授業研修会について

●今年度は全市一斉の事前協議のため、授業を見る前に授業者又は司会者からの視点や参観グループの確認できた。

- 研究協議から全体発表を省き、グループ協議を2回に増やした。1つ目には30分、2つ目には10分程度の共有する時間をとった。

【成 果】

- ・昨年に引き続き事前協議（5分）を入れることによって、協議の方向性や授業者のねらい・授業の見取り方を参観する方に示すことができた。
- ・司会の先生のための「司会原稿」を統一したことで、協議の際に授業者への批判が少なく、生徒の活動に主眼を置いた協議にすることができた。
- ・グループ協議では、当日の欠席者がいて2人になったところがあったが、やはり3人という人数の協議がちょうどよかった。
- ・見取りがよかった。意識改革できた。
- ・ワールドカフェ方式をとったので、いくつかのグループの内容が知れてよかった。1回目のグループのみでは他のグループのことがわからないから。
- ・いくら話しても話が尽きない。時間が足りない。

【課 題】

- ・学校に残る教員が少ない学校では、運営が厳しい。
- ・合計2回の協議をし、1回目は活発な協議にすることができた。2回目は情報共有で充分。
- ・授業者に支部のテーマを十分理解してもらえたかどうかはわからない。

【申送り】

- ① 「事前協議→授業→事後協議→指導主事より」の流れで行う。その際、主事にお話しいただく時間は20分程度必要。授業の良かった部分についても話していただくことを事前をお願いする。
- ② 司会原稿は統一したものを用意する。
- ③ 研究主任、授業者、司会者、記録者は必ず事前に打ち合わせの時間を持つ。
- ④ 授業実施が難しい場合の代替案の検討

2) 主任会の持ち方と協議内容について

【成 果】

- ・昨年に引き続き左京支部研究主任会のTeamsを立ち上げ、意見交流をする場を設けられた。
- ・各校での成果や困りを交流することで、自校の取り組みに反映させるきっかけをつかむことができた。
- ・研究主任の先生に高野中の授業参観に参加していただき、授業の実践交流の機会を持つことができた。
- ・開始時間を15時45分にすることで、じっくり交流することができた。

【課 題】

- ・伝達に終始せずに、研究主任で話し合う時間を増やす。

【次年度に向けて】

- ① 校内夏季研修会の内容を年度当初に共有する。
- ② 授業参観の機会を増やす。その際、実施できる学校を研究主任会の会場校にし、年間計画に入れる方向で早い段階で計画を立てる。その際、研究主任以外の教員にも授業参観への声掛けをして意識を高める。

【山科・醍醐支部 研究主任会】

1 組織・役員

担当校長	今 津 敏 一	小栗栖中
担当指導主事	岩 本 信 吾 太 田 美佐和	総合教育センター
支部幹事	亀 井 隆 次	栗陵中

1	山科中	柴 辻 優 俊	7	醍醐中	辰 巳 昌 宏
2	勸修中	鈴 木 遼	8	春日丘中	岡 田 俊 哉
3	大宅中	勝 野 久美子	9	小栗栖中	吉 田 幸 平
4	安祥寺中	谷 口 遥 香	10	栗陵中	亀 井 隆 次
5	音羽中	寺 井 淳	11	東総合中	末 吉 勝 洋
6	花山中	出 野 満里菜	※支部幹事は上記番号順による輪番制		

2 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり」

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

3 今年度の活動内容

	日 時	会 場	活 動 内 容
第1回	5月16日(火)	栗陵中	1 支部研の実施形態について 2 各校の校内研究の進捗状況について ※学力向上・GIGA 関連を含む 3 情報交換・主事より(連絡)
第2回	6月19日(月)	花山中	1 支部研の実施形態について 2 各校の校内研究の進捗状況について ※学力向上・GIGA 関連を含む 3 情報交換・主事より(連絡)
臨時	8月28日(火)	小栗栖中 (オンライン会議)	1 支部研究授業の確認 2 情報交換・主事より(連絡)
第3回	9月25日(月)	醍醐中	1 支部研の反省と次年度への引継事項 2 各校の校内研究の進捗状況について ※夏季休業中の取組報告、学力向上・GIGA 関連を含む 3 情報交換・主事より(連絡)
第4回	10月16日(月)	春日丘中	1 人権学習について 2 各校の校内研究の進捗状況について ※学力向上・GIGA 関連を含む 3 情報交換・主事より(連絡)
第5回	11月27日(月)	小栗栖中	1 前期のふり返りと後期の取組について 2 次年度の支部研の方向性について 3 情報交換・主事より(連絡)
第6回	1月22日(月)	山科中	1 各校の校内研究の来年度方針について 2 全市研究主任会紀要原稿の確認 3 情報交換・主事より(連絡)

4 今年度の総括と来年度に向けて（アンケートより）

《主任会の協議内容について》

【成果】

- ・中学校の取組を知ることができ、特別支援学校の実践に生かすことができました。内面の見取りを重視して取組を進めていたので、支部授業研修会の「生徒の思考に寄り添いながら、生徒の学びの変容を追求」という協議のポイントは、参考にさせていただき大変勉強になりました。
- ・支部研究授業について、支部としての一定の方針を示すことができ、各校で実施ができました。また、各校での行事や研修の実施状況がわかり校内活動に生かすこともできました。
- ・各学校での取組内容や実践例、また課題例なども共有することができ、自校にフィードバックする機会が得られました。GIGA 端末の活用状況や新たな活用事例なども知ることができ、活用の幅を広げることにつながりました。
- ・研究主任が初めてだったので、リードして頂けて助かりました。支部研に対しての打ち合わせや反省等、学校同士でのすり合わせができました。また、他校で行っている取り組みや情報を参考に自校へ紹介することができました。
- ・他校の研究内容や進め方などを知ることができました。定期的に集合で開催されているので、どの時期にどのような取組をされるか非常に参考になりました。
- ・電子メールだけでなく、Teams も活用して、資料の共有や連絡をしていただけたことがありがたかった。会議では、議事録にあげられている議題以外のことでも、先生方が各校で気になっている点について話題に出していただけたことで、自校のことも見直すことができました。
- ・全市共通の方法での支部研の取組でしたが、協議により方向性や形をはっきりさせることができよかったです。また、各校がどのような取組をしているかを知ることは、自校の取組と比較でき、自校に何が欠けていて、どうして行くことがよいかを考える機会を得ることができました。

【課題】

- ・支部研究授業などの準備が個業になってしまいがちで役割を設定できればもっとお手伝いできる部分があったと思います。
- ・支部研などの細かな打ち合わせが必要なところが日程の関係などでできなかった部分があったため、来年度は日程調整も含めて、細かな打ち合わせができるように確実な引継が必要であるように感じました。
- ・支部研についての打ち合わせが直前までできず、日程もタイトであったためもう少し早めにできればよいのではないかと思います。実際に出張などで参加できない方もいたようでした。
- ・支部研で使用する資料の様式は、できれば支部だけでも共通のものを使用したい。
- ・評価評定についての十分な意見交換やカリキュラム・マネジメントへの理解をより一層深める機会が設けられると、もっと各校に還元でき、よりよいものとなるのではないかと思います。
- ・協議の時間内では限界がありますが、各校の評価や研修、取組について、もっと具体的に知るすべとして、Teams 内に取り組んだもののファイルなどを共有できるとよいのではないかと思います。
- ・各校それぞれの”強みの部分”がもっと具体的に共有できると（こんな組織で研究を進めている、こんな研修会を持った、こんな変化があったなど）各校の研究が活性化されるのでは？と感じました。
- ・各校の具体的な学力向上の取組など定期的かつ活発に情報交換できるといいと思いました。

【その他・申し送り等】

- ・GIGA や校内研究授業などの資料(GIGA>R5 年度>年度初めに使う資料)みたいな形で teams のチャンネルに入れていくのはメリットよりも、作業量が多いなどのデメリットのほうが多いのでしょうか。
- ・他校での実施状況（事務的な面）が見えにくくていつも困っています。
- ・一年間ありがとうございました。
- ・Teams での情報共有は、後からでも確認ができてありがたかったです。オンライン会議を設定して頂き、会場校の先生方にはお手数をおかけしました。1年間ありがとうございました。

【右京支部研究主任会】

1 組織・役員

担当校長	山本 哲也	四条中
担当指導主事	三田村 結香	総合教育センター
支部幹事	永田 慶	梅津中

①蜂ヶ岡中	宮嶋 由紀子	⑥梅津中	永田 慶
②太秦中	永田 有紀	⑦西院中	西本 拓平
③嵯峨中	高橋 正次	⑧宕陰小中	森上 亜希子
④四条中	細田 文子	⑨双ヶ丘中	野間 勇輝
⑤西京極中	長谷川 文彦	⑩京都京北小中	池内 理美

*支部幹事は、記番号順に輪番制とする。(令和5年度は⑥梅津中学校) 会議校は、駐車が可能な学校を基本として巡回制とするが、令和5年度については利便性の関係で四条中学校で行った。

2 研究のテーマ

「伝えあう力の育成 ～深い学びを実現するための効果的な課題の設定～」

3 今年の活動内容

回	月 日 (曜)	内 容	会場校
第1回	5月15日(月)	①今年度の右京支部研究テーマの設定 ②支部研究授業について ③GIGA スクール構想の各校の進捗状況	四条中学校
第2回	6月19日(月)	①支部授業研修会のもちかたについて ②夏休みの研修計画 ③情報交流	四条中学校
第3回	9月25日(月)	①支部授業研修会のふり返り 次年度に向けての成果や課題・困り・改善点 ②情報交流	四条中学校
第4回	10月16日(月)	①夏季校内研修会の情報交流 ②各校の学力向上の取り組みの共有	四条中学校
第5回	11月27日(月)	①各校の家庭学習の取り組みの共有 ②その他情報交流	四条中学校
第6回	1月22日(月)	①来年度の年間研修計画について ②PDCA シートをもとに各校のふり返り	四条中学校

4 今年度の総括と次年度に向けて

【成果】

- ・ 今年度の右京支部研究主任の方の半数程度が、初めて研究主任をされる方であり、慣れない部分も多かった。それをふまえて担当の校長先生や指導主事の先生に指示や助言をいただきながら研修会をすすめるなかで、各校の情報交換や困りの相談・意見交流を活発に行うことができた。
- ・ 研究主任として何をしていくのか、またどんなことを考えておくといいのかなどの相談や意見交流を重ねていくなかで、他校の取り組みやアイデアを自校に取り入れることができたり、今後の参考にしたり、研究主任自らの経験を積むことにもなった。特に各校の「学力向上の取り組み」や「家庭学習」について、帯タイムを取り入れた反復学習や自学自習ノート（自分で学習内容を決めて自由に書いてよいもの）のような取り組み、朝読書の時間の活用方法などの情報は、一校で行うにはもったいないものも多く、意見を交換することで他校にも活用ができると考えられる。
- ・ 夏の研修についても、どんな講師の方をどのようにして呼んだのかを共有することができ、有意義であった。各校の事例紹介をもとにした意見交流では、他校がどのような研修を取り入れているのか、また実践したほうがよい研修などを伝え合って参考とすることができた。
- ・ 支部研究授業の事前協議の際に、この時間の意義を説明するパワーポイントを共有することで全会場同じように伝えることができ、その後の協議に大きく役立った。
- ・ 授業力向上への取り組みのために、まずは研究主任として教科会や周りの教職員の方との連携をとることが必要である。その際の具体的な動き方を各校の実践や研修会の資料をもとに議論して、理解を深めていくことができた。

【課題】

- ・ 昨年に引き続き、半数以上の学校で研究主任が変わり、またその全員が研究主任を初めて経験される方であった。そのため、昨年からの引き続き参加している数人がどうしても話の中心となってしまい、全員で活発に意見を交換するところまではいかなかった。来年度、今年を中心メンバーがいなくなることも考えられるため、端末を会議に持ちより、議事録を細かく残していくことが大事だと感じた。
- ・ 支部研究授業の事後検討会について、他支部ではTeamsのホワイトボード機能を利用されており、次年度以降右京支部でも事後検討会で活用するか引き続きの議論が必要である。（今年度は例年通り、感熱紙に拡大印刷した枠に付箋を貼る形で行った。）
- ・ 育成の授業の指導案の形式が資料の中になかったこともあり、担当の先生方への伝達が遅れ迷惑をかけた。
- ・ 今年度はそれぞれの学校の取組の交流は活発に行うことができたが、右京区として何か共通して行うような取り組みを考えるとところまではたどり着くことができなかった。

【次年度に向けて】

- ・ 右京区の研究テーマを固定化していくのであれば、各校の研究部としても目標もそこに沿ったものを検討していく必要があるのではないかと。
- ・ 研究主任どうしの連携を深めるために、できれば早めに右京支部研究主任 Teamsなどを立ち上げるなどして、情報や資料の共有を図っていく。
- ・ 学力向上のための具体的な取り組み内容を検討する時間をとれるような研修会を計画する。
- ・ 幹事を含めた数人の研究主任が輪番で運営チームとなり定期的な研究主任会を運営していくと、さまざまなアイデアが生まれ、研修会の内容が充実していく。

【西京支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	平井 真広	西陵中
担当指導主事	島 さやか	総合教育センター
支部幹事	森岡 恵美	檜原中

桂中	坂田 悠介	松尾中	田村 知久
桂川中	八田 直美	檜原中	森岡 恵美
大枝中	梶原 寿彦	洛西中	高 彩子
西陵中	宅間 光晴	大原野中	木下 愛実
西総合	小野 正統		

◎幹事校の順番

H27年度	檜原中	H28年度	桂中	H29年度	大原野中
H30年度	松尾中	R元年度	桂川中	R2年度	大枝中
R3年度	西陵中	R4年度	洛西中	R5年度	檜原中

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成する授業づくり

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～」

3. 今年度の活動内容

	日時	会場校	活動内容
第1回	5月22日(月)	西陵中学校	①各校の方針、研修計画取組の交流 ②支部研究テーマの決定 ③第1回研究主任会幹事会の報告 ④その他情報交換 ⑤担当指導主事より
第2回	6月19日(月)	檜原中学校	① 支部授業研究について ② 第2回研究主任会幹事会の報告 ③ 夏季校内研修予定の交流 ④ その他情報交換 ⑤ 担当指導主事より
第3回	9月25日(月)	西陵中学校	① 支部授業研究について ② 第3回研究主任会幹事会の報告 ③ 夏季校内研修の報告

			④ その他情報交換 ⑤ 担当指導主事より
第4回	10月16日(月)	西陵中学校	① 支部授業研究について ② その他情報交換 ③ 担当指導主事より
第5回	11月27日(月)	西陵中学校	① 支部授業研の振り返り ② 全国学力状況調査の分析結果の共有 ③ その他情報交換 ④ 担当指導主事より
第6回	1月22日(月)	西陵中学校	① 第4回研究主任幹事会の報告 ② 校内・校外研修等の情報共有 ③ 支部の年間反省・次年度に向けて ④ その他情報交換 ⑤ 担当指導主事より

4. 今年度の振り返り(成果と課題)

成果

- ・実践交流をすることで、各校の実践(よかったもの)から学び、それらを自校に持ち帰って実施することで効果的、有意義な校内研修の実施につながった。
- ・支部研の準備として実際に模擬的に授業、協議をすることで共通理解を深めることができ、各校での伝達、当日の実施がスムーズに進んだ。(支部研究主任会前に、他校の授業を参観することで、参考になる点もあった。)

課題

- ・各校の研修に関する資料をデータフォルダに保存することができなかった。

5. 次年度に向けて(次年度取り組みたいこと)

- ・支部研究主任会にタブレットをそれぞれ持参し、共有フォルダから資料の閲覧、保存をしていく。
(ペーパーレスでの会議を実施予定。)
- ・支部研究主任会前に、他校の実践を知るために授業参観等を行い、終始会議だけで終わらないような形も持ちたい。
- ・引き続き、有益な研修に関する情報の共有、機会が合えば支部内の他校の校内研修会に参加する等、「学び」を共有する機会を広げていきたい。

【伏見支部研究主任会】

1. 組織・役員

担当校長	新谷 幸三	桃陵中
担当指導主事	木下 要子	総合教育センター
	田華 茂	総合教育センター
支部幹事	望月 悟	神川中

1	深草中	須田 修功	7	桃陵中	細野 健太
2	藤森中	野川 幸恵	8	向島秀蓮小中	越田 友喜
3	桃山中	岡田 円香	9	向島東中	中島 朋哉
4	伏見中	波多野 好美	10	洛水中	佐田 朱見
5	神川中	望月 悟	11	大淀中	高橋 真理子
6	呉竹総合	小野 篤史	12	桃陽総合	角 あすか

2. 研究テーマ

「資質・能力を育成できる授業づくり

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を意識して～

3. 今年度の活動内容

日程	研修内容	担当	司会	記録	会場
5月15日(月)	公開授業を例に支部研の形式の検討 担当主事・担当校長より テーマ・支部研の協議の視点の決定	担当校長 担当主事 全員	神川	洛水	神川
6月19日(月)	第Ⅲ観点 各校の評価方法の情報共有 支部授業研の協議の視点の決定 各校取り組み・夏季研についての情報交換	全員	向島東	桃陵	桃陵
9月25日(月)	各校の夏季研の報告 支部授業研に向けた各校の進捗状況 支部授業研 当日の流れの検討	全員	向島秀蓮	深草	深草
10月16日(月)	支部授業研に向けた各校の進捗状況 支部授業研 当日の流れの最終確認	全員	神川	藤森	藤森
10月23日(月)	支部で研究授業へ参加	全員	各教科	各教科	
11月27日(月)	支部授業研の振り返り 事後アンケートの集計結果から	全員	大淀	桃山	桃山
1月22日(月)	来年度の支部研について PDCAシートの作成とお知らせ 年間反省及び次年度に向けて(総括)	全員	洛水	伏見	伏見

4. 今年度の反省（成果と課題，来年度に向けて）

【成 果】

- 研究協議の形が変わり、昨年度より新鮮な研修会だった。
 - ⇒教室の真ん中グループの参観（見取り）が難しい。遠くからでは会話やつぶやきを聞き取れないため、事前の授業計画の時点で座席配置を設定しておいたほうが、授業の妨げにもならない。
- 授業と評価の一体化を図る必要があり、そのための方法について「活動」を含んだ事前の課題設定を工夫する必要がある。
- 研究主任会の中で、授業を見るポイントを決め、実際に教室内で教師の生徒への働きかけや生徒の反応などを見ることができて良かった。また、そのポイントにそって研究協議をすすめることもできた。
- 第Ⅲ観点の評価のつけ方について、具体的な方針まで話は進まなかったが、各校の取り組み内容や校内研修会の実施をしての意識付けや方法論など、情報共有する機会があったことが、その後の各校の取り組みにヒントとして扱うことができた。
- 授業研究や各校の研修会の在り方について、教育情勢でも働き方改革と言われる中でどのように工夫して研修会や授業研究を実施しているのかを共有し、各校持ち帰って実施できる流れが伏見支部研究主任会でできたことが良かった。

【課 題】

- ・ミライシードの活用に関しては、今年度もなかなかうまく活用が進んでいない学校もあった。情報交換の中で、ミライシードの効果的な使い方をシェアすることはできたが、それを周知し、使えるようになるまではまだ至っていない。来年度以降も、どのように使うのが良いのかを各校で研修、話し合うなど教職員の意識を変えていかなければならない。
- ・事後協議にて、まだ授業者に直接内容に関する指摘や意見が出てきた。
 - ⇒普段からの授業スタイルから回数を重ねていく必要がある。
- ・より具体的で質の高い事前説明（授業前説明）が必要・・・授業のポイントと見取るポイントの説明が必要。
- ・人権に関わる授業の発言・生徒のつぶやきについて、人権は授業の根幹であり普段の授業づくりから実践を。

【来年度に向けて】

- ・昨年度の申し送りより、今年度の伏見支部研究主任会は情報交流だけでなく、各校で行われる研究発表などあれば研究主任会の中でも話に取り入れるなど、研究主任全体で話し合いたい内容を考え、すすめていく機会ができた。来年度も設けられたらと思う。
- ・伏見支部は学校数・生徒数の規模が大きく、様々な活動が生徒の主体的・対話的な深い学びに反映されやすい規模である。よって、それぞれの特色を活かしながら日々吟味し再構築する学校活動をさらに共有するために、実際に各校に出向いては様々な取り組みを実感・研究し、各校の授業改善のための材料になるようなコミュニティに充実した支部研究主任会にしていきたい。

令和5年度 第1回 全市研究主任研修会

1. 日時 令和5年4月17日(火) 15:30～17:00

2. 会場 集合研修

3. 内容

(1) 挨拶

京都市立中学校教育研究会研究主任部会 会長 小栗栖中学校 校長 今津 敏一

(2) 講義

「校内研究の推進と充実を図るために」 総合教育センター 主任指導主事 東谷 祐子

(3) 支部内協議・交流

「今年度の校内研究の構想と校内研究の活性化に向けて」

◆協議の流れについて

- ・各支部ごとに分かれて、支部研究テーマの設定、幹事校の確認を行う。
- ・PDCAシートを用いて、各校の年度方針など情報交換

(4) まとめ

総合教育センター 首席指導主事 田中 圭

令和5年度 第2回 全市研究主任研修会

1. 日時 令和5年10月30日(月) 15:30～17:00

2. 会場 総合教育センター1階 第1研修室

3. 内容

(1) 挨拶

京都市立中学校教育研究会研究主任部会 会長 小栗栖中学校 校長 今津 敏一

(2) 講演

「主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善 - 指導と評価の一体化の視点から考える -」

講師：京都市総合教育センター指導室長 東良 雅人

(3) グループ協議及び交流

指導と評価の一体化の視点から、各校での実践例や、その成果と課題についてPDCAシートを用いて交流し、研究の更なる活性化につなげる。

(4) 各グループより報告

協議内容のまとめ *代表グループにおける全体報告がなかったので、参加したグループの記録とする。

- ・成績(評定)を出すための、「評価」となっている教科等もあり、今後自身の指導改善に向けた「評価」として一体的に捉える必要がある。
- ・指導と評価の一体化はイメージするものの、それらを学校全体で具現化でききれていない現状にあったが、今回の研修で得た視点をもとに、校内で周知徹底を行い必要がある。
- ・全国学力・学習状況調査質問紙の結果を抛り所とし、生徒の実態を捉え直し、自ら学ぶ生徒の育成を考えていく必要がある。
- ・これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習だけでなく、教科横断的な視点で学習を成立させていくことが課題となる。そのため、「カリキュラム・マネジメント」を通じて、各教科等における学習の充実はもとより、教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整える必要がある。

(5) 閉会の挨拶

研究主任部会 幹事長 向島東中学校 中島朋哉

令和5年度 第3回 全市研究主任研修会

1. 日時 令和5年1月29日(月) 15:30~17:00

2. 会場 総合教育センター第1研修室

3. 内容

(1) 挨拶

京都市立中学校教育研究会研究主任部会 会長 小栗栖中学校 校長 今津 敏一

(2) 研修の方向付け

総合教育センター指導室 主任指導主事 東谷 祐子

(3) 実践発表① 「義務教育学校の特色を生かした資質・能力の育成について」

開晴小中学校 教諭 元氏 宏輔

実践発表② 「校内研修の進め方 ～教育目標「自律・貢献・志」実現に向けて～」

京都一、すべての子どもが夢中になって学び合う授業づくり

八条中学校 教諭 桶作 浩子

実践発表を通して、学習指導要領の理念を実現するための指導や校内研究の在り方・やり方について理解を深め、各校において更なる研究推進に向けた工夫・改善を促す契機とする。

(4) グループ協議及び交流

今年度、各校で取り組んだ事例を共有し、実践発表を参考にしながらグループ内で自校の成果と課題を整理し、研究主任として校内研究を推進することに対する理解を深める。

※協議において「『学校教育目標』・『目指す生徒像』に向かう校内研修のPDCA」を活用

(5) まとめ

総合教育センター指導室

首席指導主事

田中 圭

令和5年度 全市研究主任会③

義務教育学校の特色を 生かした資質・能力の 育成について

開晴小中学校 元氏 宏輔



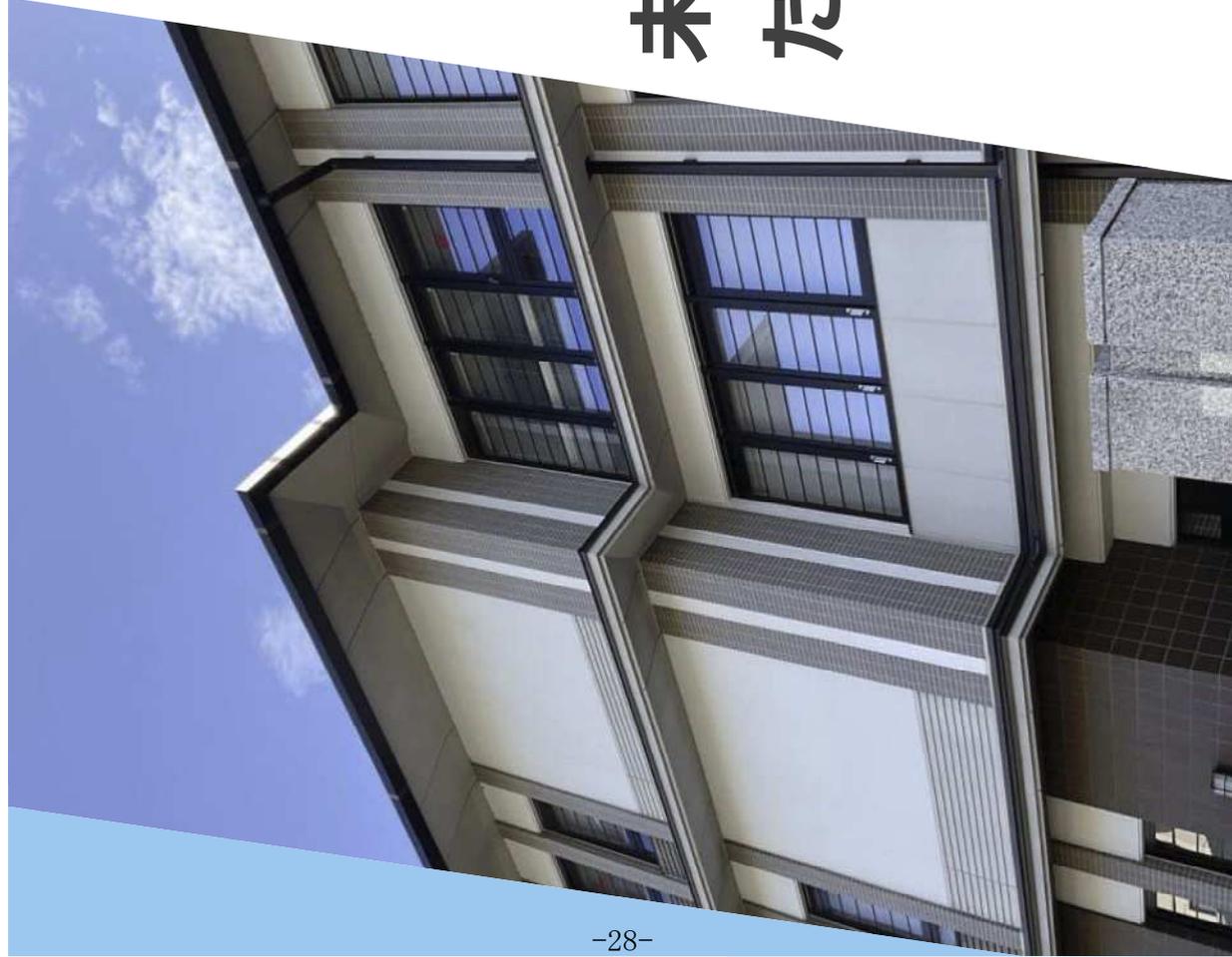
- 施設一体型で、教職員が一緒にすごしているから具体的な会話がされるわけではない。
⇒ **そこに必要性がなければいけない**
- ◎ 「社会にでてでも生きていくことに困らないようにする。」といった、より大きな共通点から必要性を見出していく。
⇒ **教科と学校独自の資質・能力の育成**

～校内研究を進めるにあたって教職員で共有していること～

- ◎ **なぜ、その研究を行うのか**
- ◎ **何を、どのように学んでほしいのか**
- ◎ **なぜ、それを学んでほしいのか**

学校教育目的

未来を創造し、
たくましく生き抜く力の育成



自ら探究する力（本校独自の資質・能力）



本校では、自ら探究する力を「課題設定力」「情報選択力」「情報活用力」「相互交流力」「自己活用力」の5つの力で構成され、探究的思考を育成するために必要な力だと考えています。

研究主題

子どもの学ぶ姿に伴走し、

「自ら探究する力」を育てる

～問いを立てられる子・自ら学びを進められる子～

をめざす

伴走的発想で、 子どもたちの探究する力を育てる

対話



ひき出す

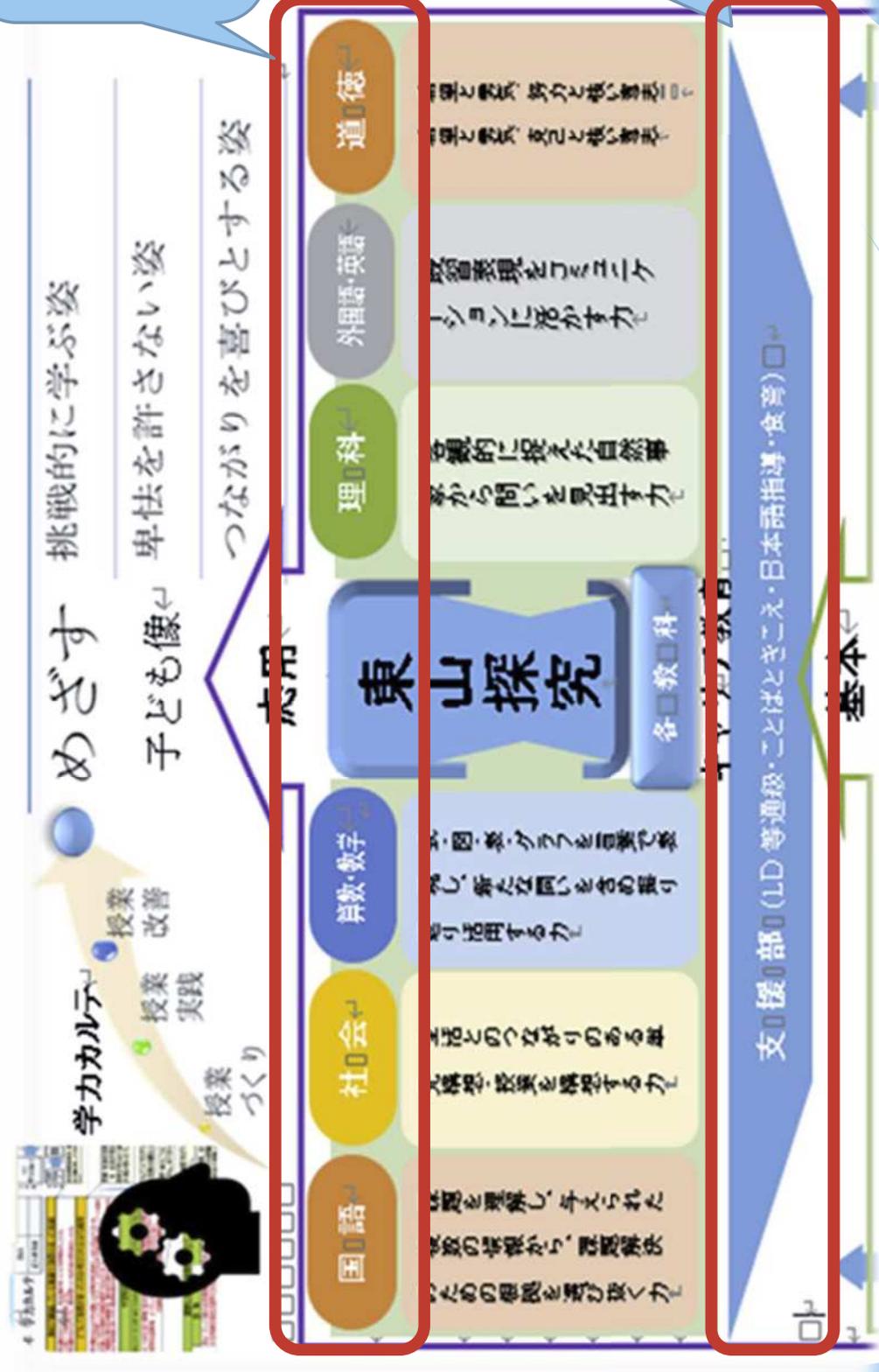


気づかせる

自ら探究する力を育成する授業づくりチーム（教科部会）

6つの教科部会

資質・能力の育成を支援する会



算数・数学部会を例に

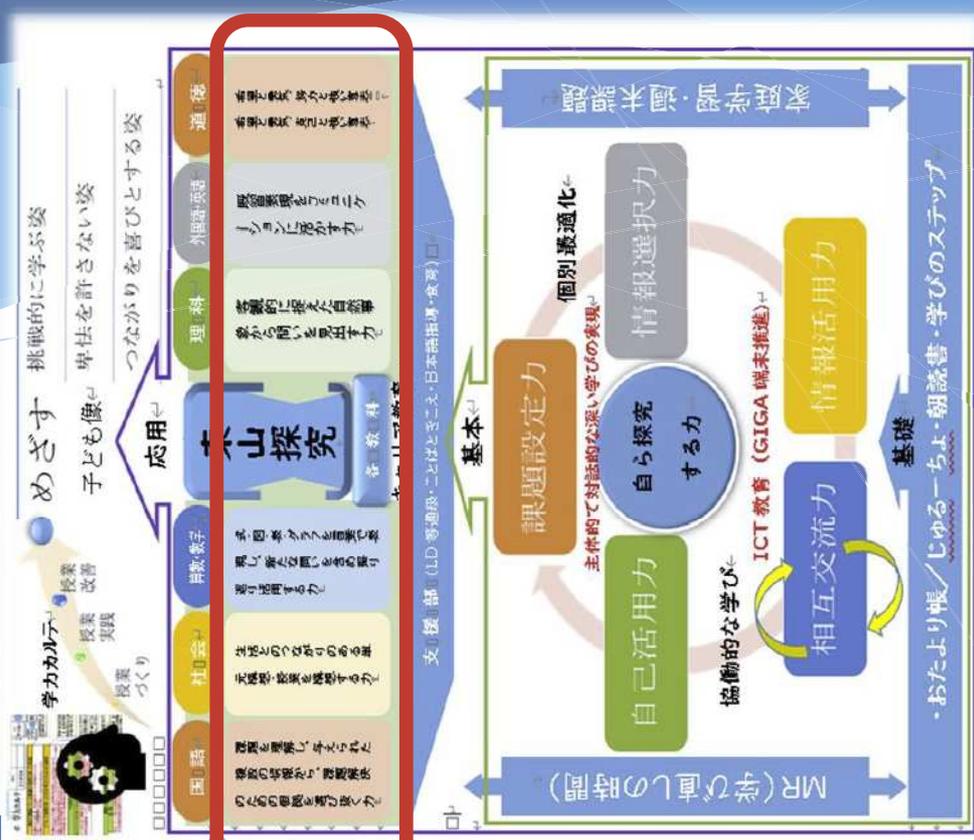
- ◎ 校長先生（数学科）
- ◎ 1年生担任
- ◎ 5、6年生算数担当教員（教科担当制）
- ◎ 7、8、9年 後期課程教員（数学科）

子どもの学ぶ姿に伴走し、

「自ら探究する力」を育てる取組

各教科部会で育成したい
資質・能力を定め

必要性を明確にした
教科部会の実施



⑤ 各教科部会で育みたい日の探究する力を選択する
事前指導検討会(前期課程) 6月に校内探究を行う部会の事前指導を行う。

11 2 木 研究発表会 前期課程授業公開・後期課程授業公開・教科部会事後協議

年間計画 どのようすすめているか

3月7日	生きる力創造部 反省	CHECK	各部から持ちよった1年を通しての反省
3月31日	生きる力創造部	・具体的な生きる力創造部研究構想の発表	
4月3日	各担当交流期間 職員会議	・各部の取組と重点や方針の確認 ・確かな学力部方針説明 (学力向上推進・東山探究・言語環境・情報教育) ・志部方針説明 (道徳/道徳推進・特別活動/クラブ・人権教育・キャリアマネジメント) ・健やかな体方針説明 (保健教育・安全教育・食教育)	
4月3日～18日・20日	全体研究会	・教科部会発足にあたっての経緯 ・学力向上推進部からの研究概要説明 (研究主題と自ら探究する力の関係) ・自ら探究する力の捉え方説明	
4月13日	教科部会	① 前期課程・後期課程のメンバー確認 ② 教科学部会での児童生徒の初見交流 ③ 9年間の連続性の中でつながりのある単元を対話する ④ 各教科部会の中で、育みたい資質能力を座標軸を使って検討する。 ⑤ 各教科部会で育みたい自ら探究する力を選択する	
5月中旬	事前指導検討会(前期課程)	6月に校内研究を行う部会の事前指導を行う。	
6月1日	教科部会	・見取り期間(4/13～5/25)を経た児童生徒の実態報告と実態を受けての今後の取組 ・具体的な計画 PLAN (実態を経ての取組)	

反省

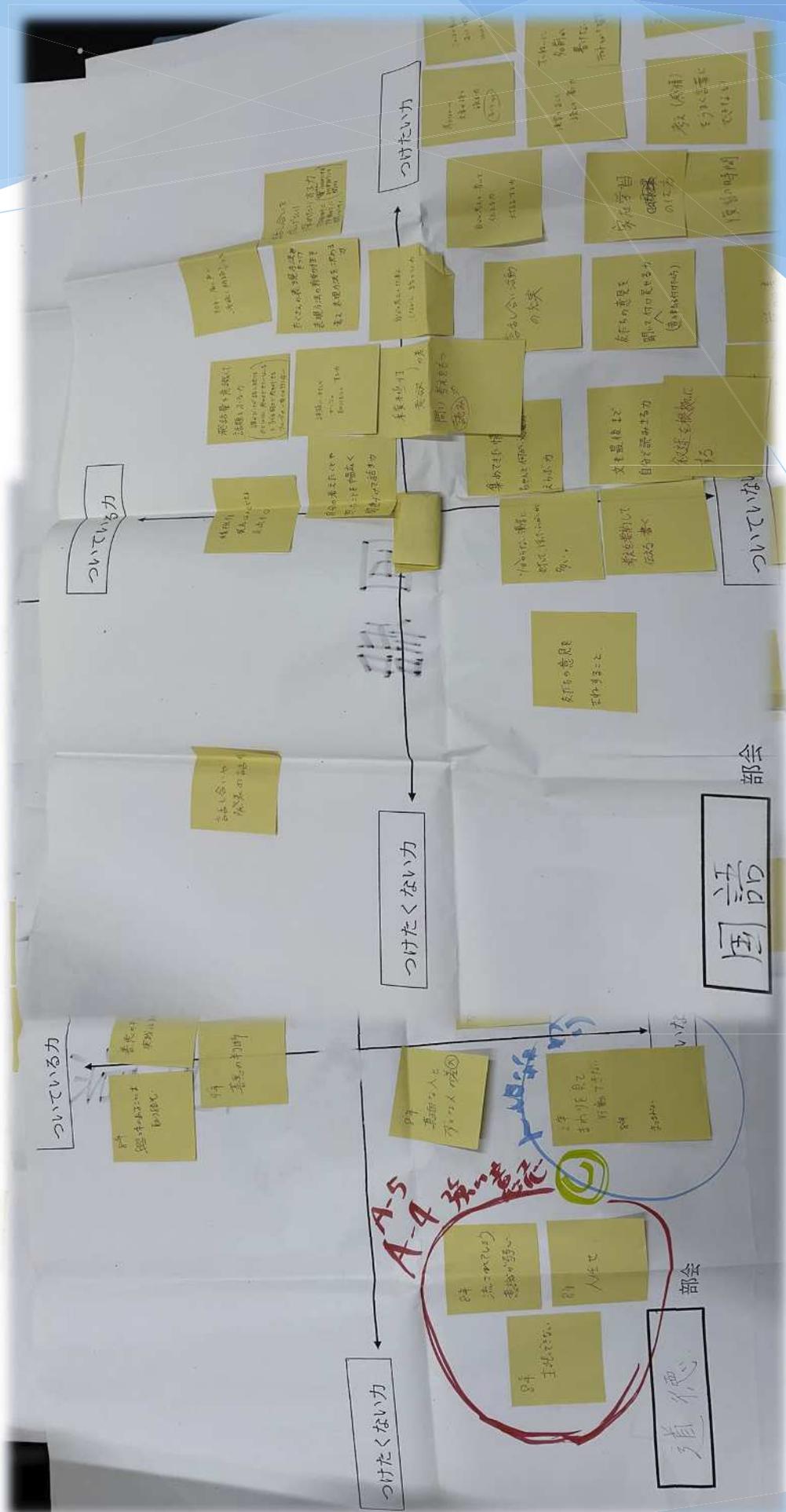
方針

概要説明

資質・能力の見立て

育成のための計画

(座標軸：思考ツール) 資質・能力の整理 教科部会①



「重点的に取り組む資質・能力と内容」の関連表

「自ら探究する力」を設定する

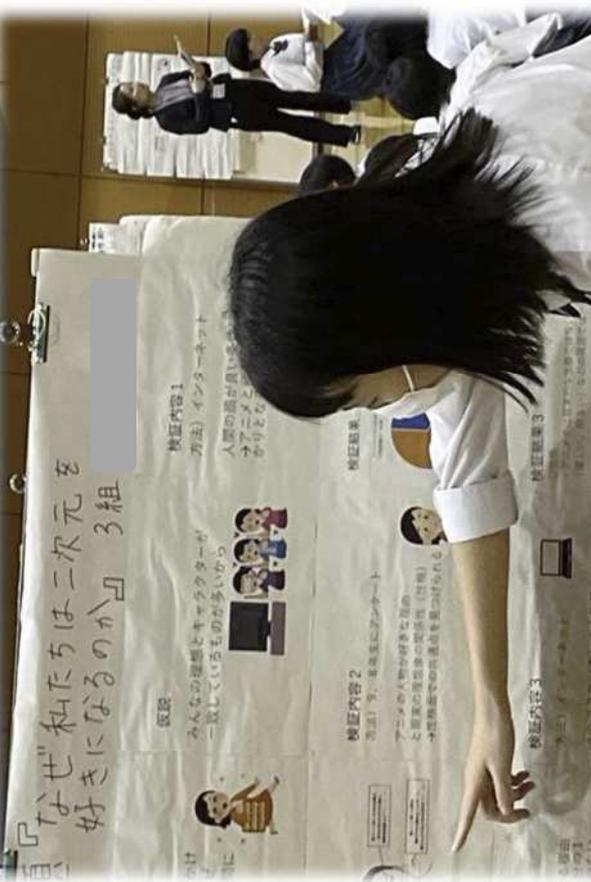


課題を理解し、与えられた複数の視点から、課題解決のための根拠を導き出す力

学年	単元名	学習指導要領	課題設定力	情報選択力
5年	内容	P139 P146 B(1)エ C(1)ウ	課題設定力	情報選択力
6年		P139 B(1)ア B(1)イ		
7年		P60 B(1)ウ C(1)エ C(1)オ		
8年		P91~ B(1)ア B(1)イ B(1)ウ		
9年	P120 B(1)ア B(1)イ			

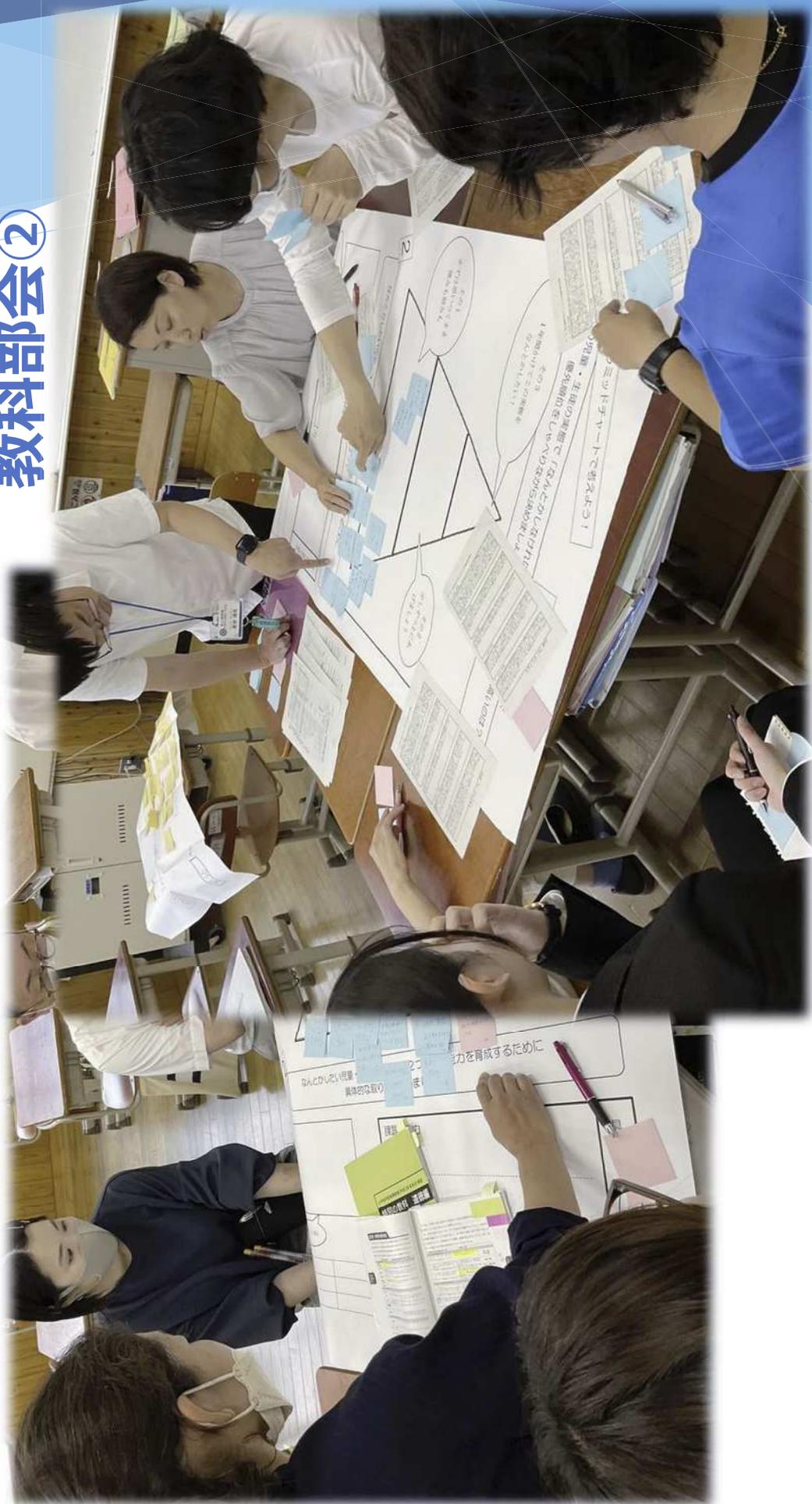
資質・能力

詳しくわかかりやすく伝えることが出来る。
 ことを明確にすることが出来る。



協働的に育てたい資質・能力を見立てる（仮説）

教科部会②



資質能力を育成するた

1 ピラミッドチャートで考えよう!

教科の児童・生徒の実態で「なんとかしなければならぬ」(課題)の優先順位をしゃべりながら決めましょう!

その3
1年間かけてこの実態をなんとかしたい!

その1
まずは思いつくまま強み・弱みも

その2
少づつ上げましょう

2

なんとかしたい児童・生徒の実態から2つの資質能力を育成するために具体的な取り組みにしましょう!

理科

部会

その2
少づつ上げましょう

その3
1年間かけてこの実態をなんとかしたい!

その1
まずは思いつくまま強み・弱みも

課題設定力
単ごと1回は自由な探究活動
「ことば」から情報収集能力
情報選取「ことば」から情報収集能力

一問一答では
傾向にあるが
自ら課題を見つけ
探究する力は弱い。

具体的な取組

「ことば」の読みと教師考定した課題の探究活動
 「ことば」の読みと課題探究活動
 自ら決定した課題に1年間実践結果、油の採り
 教師の考えさせり。

1st
2nd
3rd

ピラミッド頂点

協働的に育てたい資質・能力を見立てる（仮説）

6. 単元について

こんなふうに、**単元の内容や資質・能力**が**つながって**いて

こんな児童生徒たちだから

こんな指導をすると

こんな**自ら探究する力が育つ**

のではないか

教科部会で立てた仮説を校内研究や 教科部会授業で行う（実践）

前期課程教員



後期課程教員

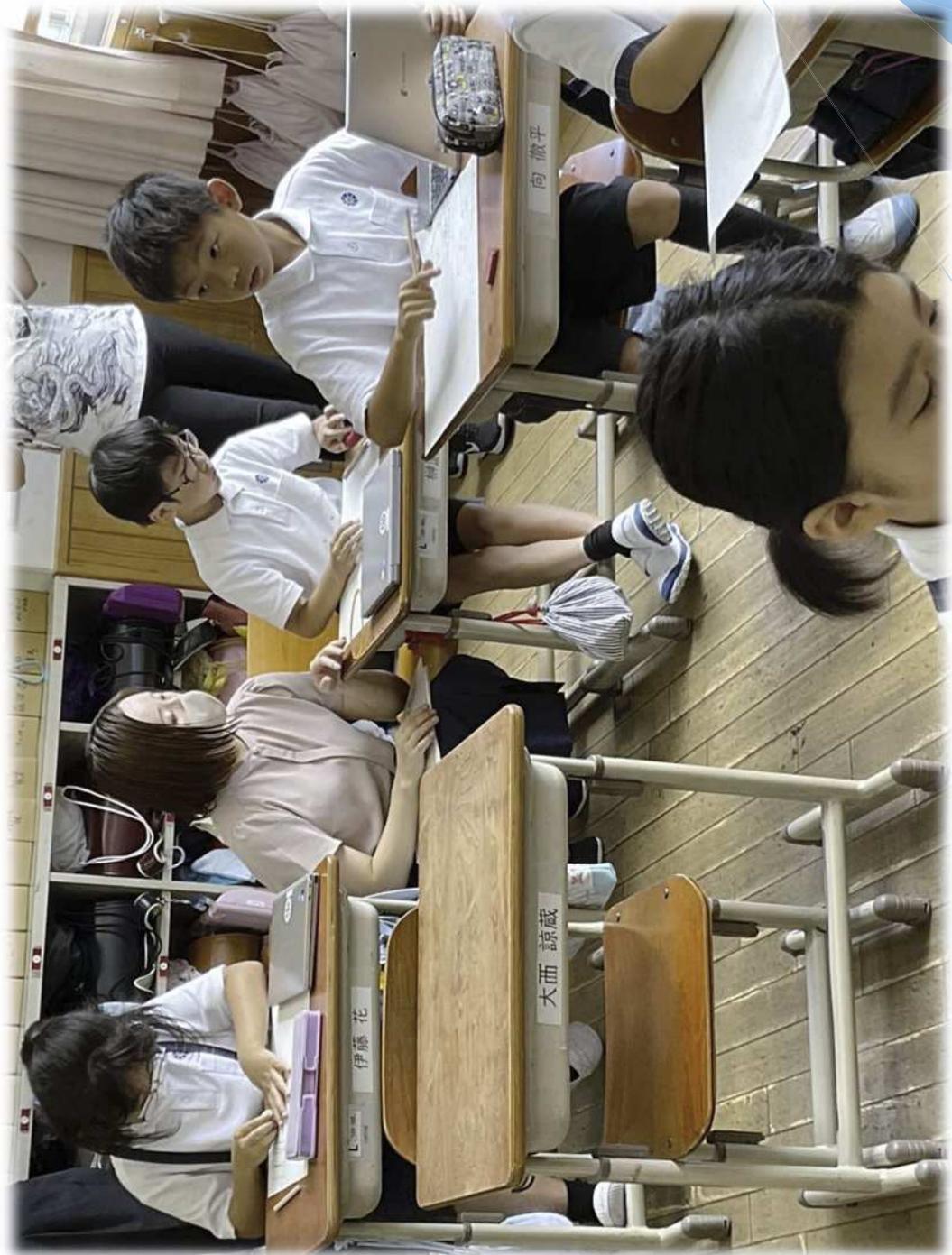
4年生理科「電気の動き」より

伴走的発想を指導展開へ

<p>① 輪ゴムをはじく強さを調べて調べる。 ○(こする) プラスチックのコップに糸を通して、こする。 ○(ふく) 笛をふく強さを調べて調べる。</p>	<p>② 前時の活動の様子を振り返り、身近な輪ゴムを手渡して、「はじく」方法をどのように実験するかを考えられるように促す。</p>
<p>③ 音の性質について、差異点や共通点を基に問題を見出し、実験方法を図や文章で表現することができる。 〔思考・判断・表現〕 (発言・ノート)</p>	<p>④ 音の性質について、差異点や共通点を基に問題を見出し、実験方法を図や文章で表現することができる。(発言・ノート)</p>

校内研究授業
3年生 (理科)

伴走的発想を指導展開へ



校内研究授業
3年生（理科）

実践結果をもとに事後研究会を行う（検証）



各教科部会ごとの視点で考える（共有）



**他の教科
部会の実践**
を知ること
で、
自身の所属
している教
科部会
の資質・能
力の育成に
生かして
いる。

国語科部会

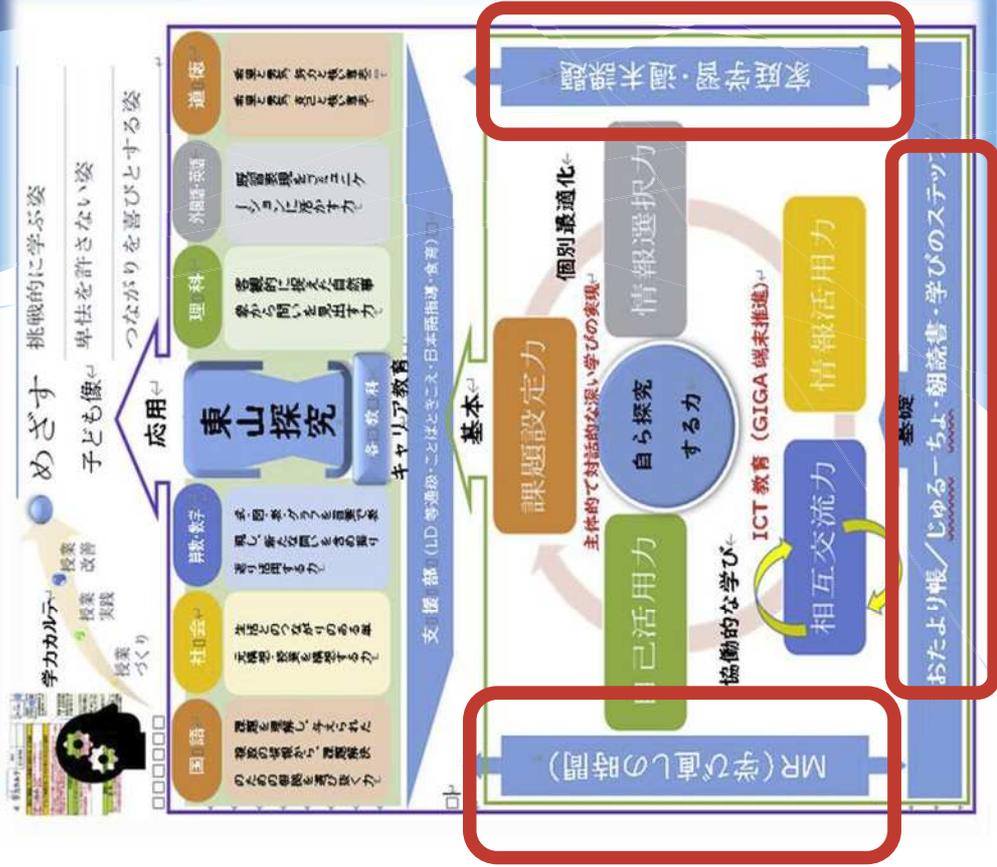
社会科部会

理科部会

研究発表会に向けて模擬授業



自ら学びを選択し、計画できる取組の実践



▶ MR (学び直しの時間)

▶ おたより帳・じゅるーちよ

▶ 週末課題・自主学習

子どもの学ぶ姿に伴走し、
「自ら探究する力」を育むMRについて

M R マスター

1年生 - 4年生

1 s t

M R マス

5年生 - 7年生

2 n d

M R マネジメント

8年生 - 9年生

3 r d

1st MR (マスター)



MRファースト（4年生）記述アンケート

朝がキーワード

今のMRについてどう思っていますか。

朝からいろいろな学習が出来ていいと思います。とても楽しいし朝の運動にもなるからいいと思います。授業の前に頭がやわらかくなっていいとおもう。

朝から声を出せてとてもいいと思います。

朝のMRで記憶力の向上や、頭の回転がスムーズになりとても良いと思いました。

元気が出ます。朝の眠い時でもMRの口の体操でぼちり目が覚めて授業がはかどります。

いつも朝声があまり出ないので助かっていますとおもいます。

平家物語など口に出して言う音読など嫌いなかけ算が早くなったので良かったですと思います。

あざめがいい

面白く簡単ですね。他の俳句や、短歌などの歌を、もっと増やしてほしいです。

朝に声出できるし、掛け算の練習になっています。

とても楽しくいつも目が覚めて、ちよよいです。

朝から声を出せるMRがいいと思います

昔から伝わる歌などを知り意味など共有しあえたりしてコミュニケーションがとりやすい。

朝だから声が小さいけど声が大きくなった

朝から声を思いつき出すことで毎日

スッキリして、しっかりと目覚めることができ、

とても朝学習は、しっかりと起きるために役に立つと思います。

朝の声出しになっていて、掛け算の練習になっています

声を大きくだして目が覚めて楽しい

朝学習に百ます計算があるから1時間目から集中できるからすごく子供にして私はいと思います。

あさはおきにくいからもっと五十音の歌を増やしてほしい。

朝から声がたくさんでる。

皆朝からはきはぎいってひやくマス計算のときになったら静かに真剣にしているのがいいと思う。

掛け算で計算力をあげているけれど、もうちょっと項目を増やしてほしい

国語の科目も、音読ともうちょっと足してほしいでも時間的には厳しいから、これが理想のMR

OuOMRは "interesting" and "entertaining" だと思えます。^U^ "interesting" と "entertaining" の意味が知らなかったらすみませんでした。UnU

3rd
 家庭学習
 ⇒ 量で失
 ⇒ 必要性
 日々
 との間
 向き合
 のでは



習熟と
 自己調整

わくわくコース

どんどんコース

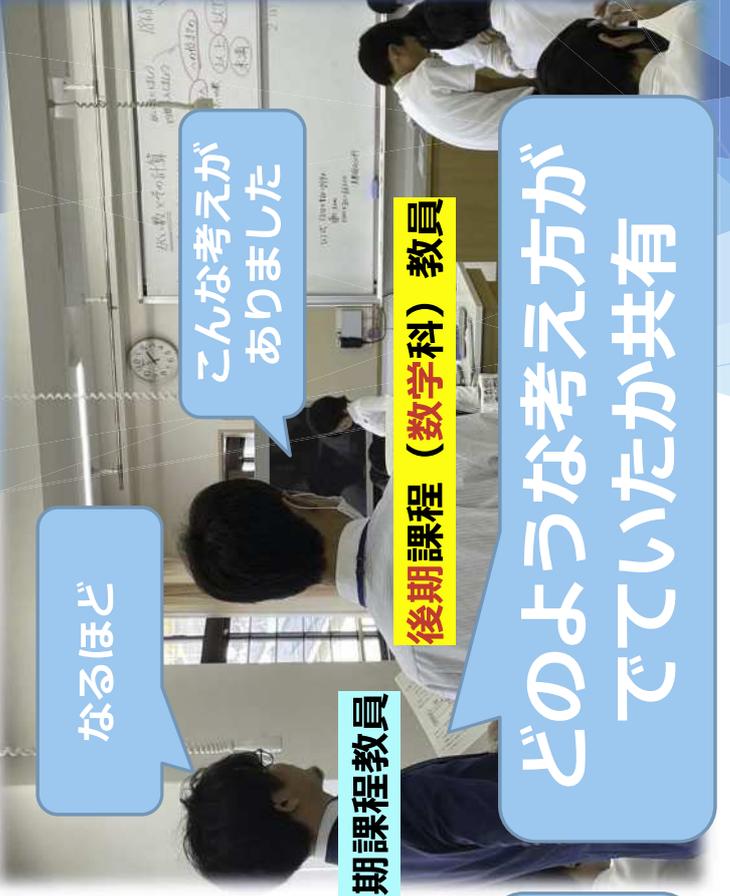
ゆっくりコース

じっくりコース



具体物を使って先生へ説明

後期課程 (数学科) 教員



なるほど

こんな考えがありました

後期課程 (数学科) 教員

どのような考え方で
できていたか共有

じっくりコース

わくわくコース

2nd 5年生 MR算数
(4つの習熟度別グループ)

「わくわく」MR子どもたちは、こんなことを話している

ぼくは $\bigcirc \times \triangle + \square$ と考えました。
 \bigcirc は 決められた数字で、その何倍かを表すからです。そこに元からあった \square をたしました。

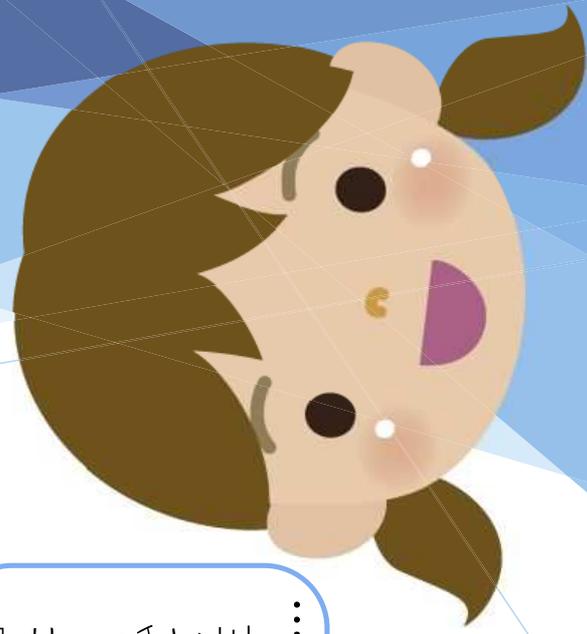
聞かれているのは 最初の数なので、元に戻すとすれば減った数を足して元に戻すという考えかたです。

最後にたした \square ですが、 \square は食べた数なのですが、どうしてひかないのですか。

そうするともとにする数と変化量がかわってしまおうので式の意味がかわってしまいます。式は、ストリーにならないと！！

なるほど、なので \square をたして元に戻したということですね。私納得できました。私には実は $\triangle \times \bigcirc$ にしていいと思います。これでも正解だと思おうのですが...

まっってくださいーい。もう分からなくなってきました。もう1回 $\bigcirc \bigcirc$ さんの意見あたりからお願ひします！！たすけてーい！！





考え方を共有したり



教えたり、教えてもらったりする

7年生 MR
(各クラスで)

7年2組の様子

教員の声 アンケートから

▶ 最初はこんな声がありました

MRについて(改善)	
前期課程教員	教員の 方向性の確認 が必要です。やりながら...ではなく、学年としてこうしよう！の 意見 が必要かと思えます。
後期課程教員	わくわくコースのT1を〇〇先生に行っていたいただいたのですが、聞き合いとか練習合いとかその 場 に 必要な資質・能力の向上 にメスを取り入れられていて、わくわくの児童の力を伸ばせたいという 気持ち が伝わります。
前期課程教員	いつも後期課程の先生が 応用問題 や ヒント になるようなことを伝えてくださったりグループに入って 子どもたち と かわってくださって ありがたいです。後期課程の先生のお力をもっと 発揮 して いただ け る ような工夫をしたいなと改めて思いました。
後期課程教員	じつくりの担当です。できれば、 九九を固めたい と思えます。なので、毎時間最初の10分ぐらいで、2年生とかで使うような、九九をマスターする 問題集 などを 少しずつ やったり、できるようになれば100マス計算を す るとか を取り入れ てはどうかでしょうか。
後期課程教員	後期課程の先生のかかわり方など、もっと 具体的に 指針をださないと、 乗り入れる意味が生活指導面に偏る 。
後期課程教員	ご用意していただいた プリント を ICT化 してもいいのかなと思ったりしましたが...鉛筆を持って練習することも大切だと思ったりしております。

教科担当制
算数教員が中心
(**ジョイプロ活用**)

豊かな表現力の育成
(**とくに言動**)

後期課程教員の**アイデア**

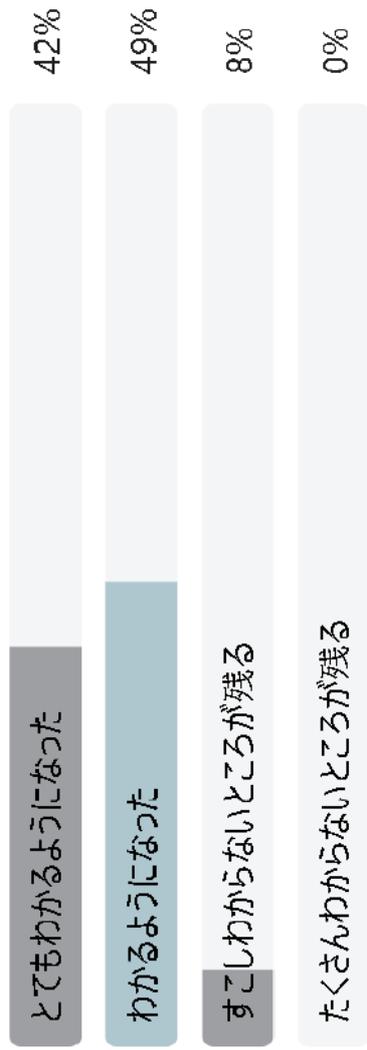
根っこの力の徹底

複数体制の**必要性**

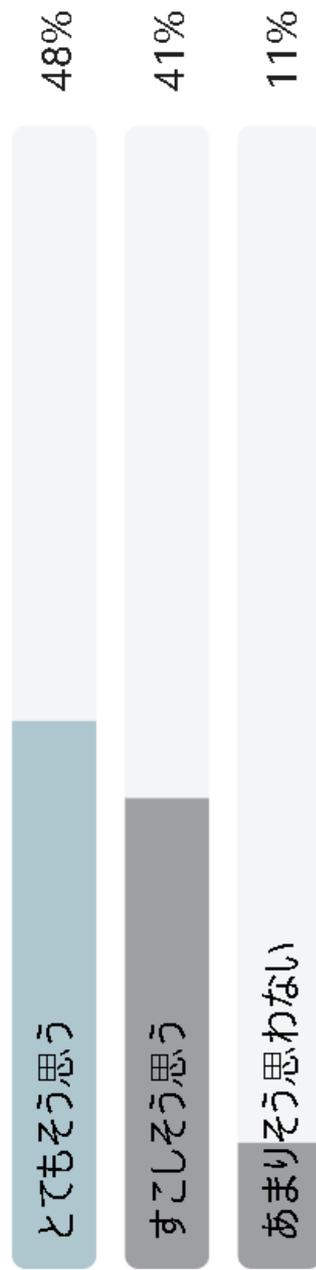
解答**ロイロ**ノート

5年生MR アンケートより (エビデンス)

17. MRの時間で自分のわからないところが少しわかるようになりませんか。



18. MRの時間は楽しいですか。



教科への関心等については、普段の授業で改善していく

MRの時間で自分のわからないところが少しわかるようになりませんか。
MRの時間は楽しいですか。

わかるようになった
わかるようになった
わかるようになった
とてもわかるようになった
とてもわかるようになった
わかるようになった
すこしわからないところが残る
とてもわかるようになった
あまりそう思わない
あまりそう思わない
あまりそう思わない
あまりそう思わない
あまりそう思わない

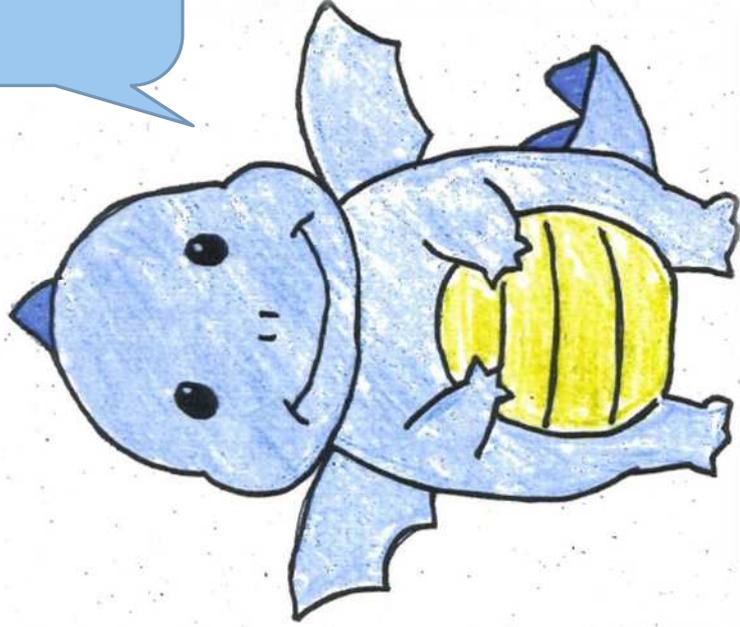
各取組の先生方の声 (エピソード)

(反省) こうなってほしいなという
願いはあるが・・・

→ 願いは明確だが、各取組なにとつな
がっているのかわからない。

→ 願いなく、各取組だけを実行
自己目的化 (手段と目的が入れかわる)

エイトくん



時間と
期間

学校教育目的

未来を創造し、
たくましく生き抜く力の育成

安心
安全
安心感

各ニーズに
そくした魅
力的な提案
ワクワク感



共創造
チャレンジ！！

開晴小中学校はどんな学校ですかと質問されたら？（紹介）

つながりを喜びとする姿



澄みゆく心、

かがやく志の育成

ご清聴ありがとうございました



「校内研究の進め方」

～教育目標「自律・貢献・志」実現に向けて～

「京都一、すべての子どもが夢中になって学びあう授業づくり」

京都市立八条中学校

桶作 浩子

八条中学校について



・八条中学校について(学校説明)
生徒数281人

3年生4クラス

2年生3クラス

1年生3クラス

育成学級2クラス

合計12クラス

(令和6年1月現在)

令和5年度 「リーディングDXスクール事業指定校」(1年目)

自他の幸せのために、志を持って主体的に行動できる生徒を育てる。

⇒ 「**京都一、すべての子どもが夢中になって学びあう授業づくり**」

方針

授業改革を行う

- ・「ICTを活用することで生徒たちの興味関心を引き出し、学習に対する意欲を高める。指導者もICT活用を工夫することによって授業力の向上にもつながり、生徒の学力向上につながる」 → 学校目標具現化に向かう...

仮説の検証に向けて、研究を進める。

- ・ **生徒自身で何が重要かを精査し、他者と協働しながら解決に結び付けていくためにICT機器を活用するようになる。**

令和5年度から

リーディングDXスクール指定校として

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、**主体的・対話的で深い学び**の実現に向けた**授業改善**を目指す **主体**

研究内容・取り組み内容

1. 生徒・全教職員が**Microsoft365**を活用できる。
2. **インターネット**を活用した調べ学習の充実や資料の活用。
3. **既存のアプリ、ロイノート等**を活用し、生徒たちの考えや資料の共有。
4. **クラウド**を活用し教材の取り出しや個人資料の管理。
5. **チャット機能等**を活用したコミュニティーづくり。

八条中学校の授業力向上の具現化に向けて

一人一人の教職員がスキルアップを目指す

- ICTを活用した新たな授業を計画(Plan)
- ICTを活用した新たな授業づくりを実践(Do)
- 生徒からのアンケート・公開授業・研究授業での評価や改善(Check)
- 次の授業に向けて課題提示(Action)

⇒ **まず教師がICTに慣れ親しむ**

⇒ **「今までの自分を超える」**

研究部の「3つの取組」

1. **全教職員がICT活用した授業展開を試みる**
(チャレンジ+振り返りの共有)
2. **公開授業の充実**(5月、11月、2月)
3. **研究発表会の実施**: 石井准教授をご講師として依頼し、さまざまな視点で学校と授業への評価・アドバイス・ご講評・ご講義を受ける

1. 全教職員でICT活用

1学期:

「共有」をキーワードに

組織的に
行う
授業
改革
を
実践
計画、実践

2学期:

「個別最適化」を

3学期:

「共有」と「個別最適化」をキーワードに授業計画、実践

⇒ それぞれの教員の実践をクラウドで共有する。

⇒ (教師も)他者から学ぶ。

Microsoft Teams Meeting Interface

Windows Taskbar: 10°C 小雨, 9:43, 2024/01/21

Browser: (6) PowerPoint | Microsoft Teams X FMVサーバー X FMVマイページ X

URL: https://teams.microsoft.com/_/#/apps/3e0a4fec-499b-4138-8e7c-71a9d88a62ed/sections/MyNotebook

Search: PowerPoint の検索

Navigation: ファイル ホーム 挿入 描画 デザイン 切り替え アニメーション スライドショー 校閲 表示 ヘルプ

Slide 1: 八条中学校

Slide 2: 学年【1】教科【国語】

Slide 3: 学年【2】教科【国語】

Slide 4: 学年【3】教科【国語】

Slide 5: 学年【1・3】教科【社会】

Slide 6: 学年【1】教科【理科】

Slide 7: 学年【1】教科【数学】

Slide 8: 学年【2】教科【数学】

Slide 9: 学年【3】教科【理科】

Slide 10: 学年【3】教科【数学】

Navigation: スライド 1/21 日本語

授業実践の例

Plan+Do

授業実践の例

1学期：**共有**の実践例

Teams、ロイロノート、URLの活用

Teams活用の実践報告

学年【3】教科【総合・道徳】



取組の内容

総合：Teamsを使って、ファイルを共有し、修学旅行のまとめ学習・発表（パワポ）の作成。

道徳：学年道徳の実施。クラウド上で生徒たちの意見の共有と交流。

成果

総合：パワーポイントで共有することで、作業効率が上がった。

道徳：意見の共有を通して、自分と友達の見解の相違点が見つけやすくなり、活発な交流が生まれた。

課題

総合：学年全員でファイルを共有するので、誤作動で消えたり、移動したりすることがあり、生徒がなれるまでに時間がかかった。

Teams活用の実践報告

学年【 2 】 教科【 理科 】



取組の内容

- ①顕微鏡のパフォーマンステストで活用。顕微鏡の使い方の手順を撮影し、提出。
- ②池の中の微生物図鑑を作成。クラスのTeamsを活用し、パワポで共同編集を行った。

成果

- ①生徒自身が自分で手順を確認しながら進められるので、技能の定着に成果があった。
- ②同時に行えることで一人一人が意欲をもって取り組めた。

課題

個別最適な学びから、生徒の話し合いにつなげていくような工夫が必要。

Teams活用の実践報告

学年【 3 】

教科【 総合 】



取組の内容

修学旅行に関する調べ学習の時間に、どこを見学したいか、お土産は何を買いたいかを各自で調べ、その結果をクラウド上で共有した。

成果

各自が自分の行きたい所をアピールするために端末を使って発表する活動につながることができた。また、協働的な学びの中で決定したルートだったので、当日も全員納得の上で行動することが出来た。

課題

指導者も上手に編集活用が求められる。

ロイロノート活用の実践報告

学年【1・3】 教科【社会】

【P222～ 歴№19 行・軌の高まりと普通選挙の実現】

Q、差別をなくしていくためには多くの課題があります。今日の授業で習った内容を踏まえ、自分にとって何が大切かを選び、ピラミッドで表して、その理由も答えて下さい。

理由⇒

その人がどんな人なのかそれをまず知ることが大切だと思った。それを知ったうえでこんな人もあるんだと、一人の人として尊重することが大切だと思った。そのうえで、その人がしたいこと、できないこと助けがいてるようなことをサポートすることが大切だと思った。



取組の内容
ピラミッド型の思考ツールを使い自分の考えをまとめ、全体で共有した。

成果

その場に適した思考ツールを使うことのできる生徒も主体的に考えを整理でき、自分事としてまとめられた。

課題

課題の精選が必要になる。どこまで生徒にゆだねるのかを生徒の現状に合わせて考えなくてはいけない必要がある。

【P222～ 歴№19 社会運動の発展、普通選挙の実現】

Q、差別をなくしていくためには多くの課題があります。今日の授業で習った内容を踏まえ、自分にとって何が大切かを選び、ピラミッドで表して、その理由も答えて下さい。

理由⇒まず理解することは当たり前だと思った。その理解したことを行動に移す手段として思いやりや助け合いが必要だと思った。そして、差別は自分より弱い人を行なすことで自分の価値を認めたいのかなと思ったから、相手を尊重することで、自分の価値を認める方法を考えさせることが一番重要だと思った。また、無知ということは、どんな人が差別されているのかわからないから、どんな人にも同じように接することができると思っただか。

ロイノート活用の実践報告

学年【3】 教科【国語】



【意識したこと】
文字のバランスや大きさに意識しました。また、飛び跳ね払いの三点を丁寧に書きました。
一枚目は文字のバランスや半紙の使い方が下手だったので気を付けました。



【画像を見比べての変化・ふりかえり】
一度目に書いた物の問題点を見つけ、改善することで、自分の課題が分かりやすくなり、改善することができました。
また、筆は寝かさないう事や筆先の向きに注意することが大切だと気付いたので、次回もこの事を活かしたいと思います。

取組の内容

書写の時間、一枚目と最後の一枚の写真撮影を撮ることで自分の作品を客観的に評価できるようにした

成果

自分の作品を客観的に把握・比較することで、くせや授業内での自分の変化を取りやすくなった。また、次時の活動や事後の振り返りにも活かすことができた。

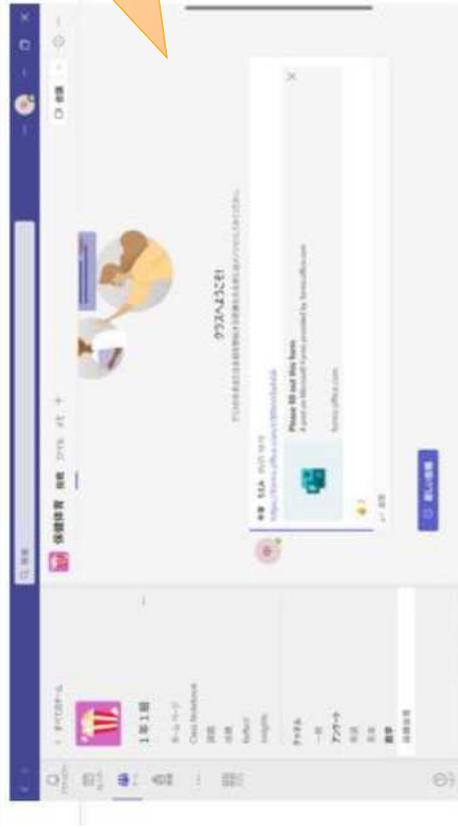
課題

クラス全体で共有し、より客観的なアドバイスを互いにし合う学習につなげたい。

formsの活用の実践報告

学年【1・3】

教科【保体】

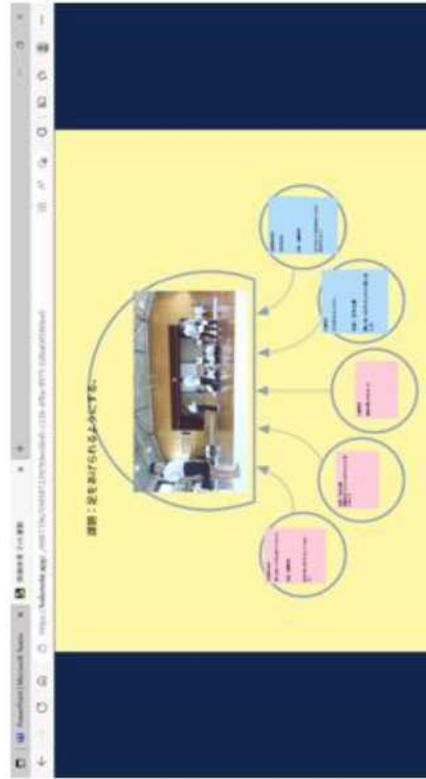


取組の内容

- ①器械運動の初めに、formsでアンケートを行い、実態を把握。
- ②授業中に撮影を行い、自分の動きを確認したり、他者の動きを確認できたりと後で振り返ることができた。
- ③新体力テストの入力を生徒自身が行った。

成果

- ①その場で解答が見ることができ、生徒たちも興味・関心が高まった。
- ②自分の動きと他人の動きを比較することで、自分の動きを客観的に見直すことにつながった。
- ③生徒のタイミング練習にもなり、教員の働き方改革にもつながった。



課題

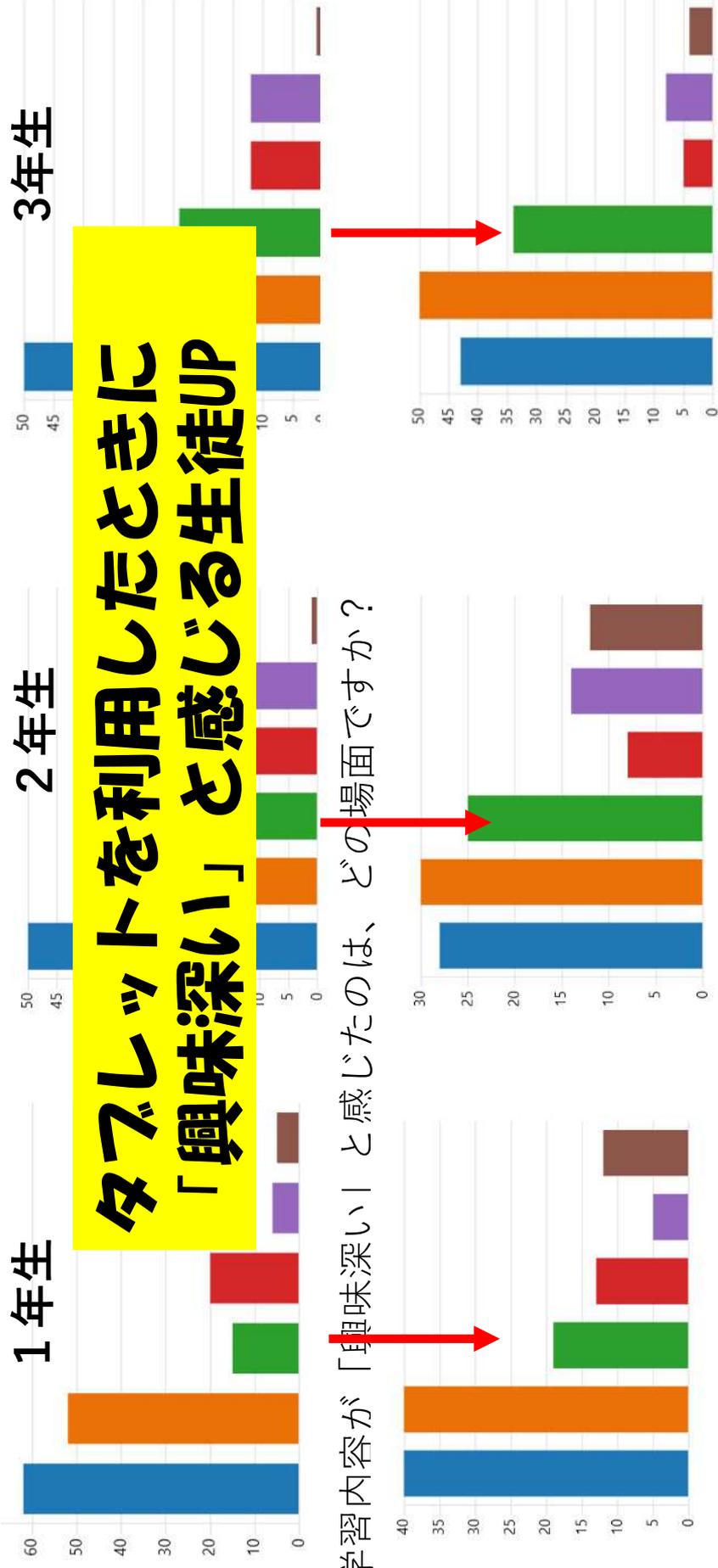
撮影に時間がかかるので、実技の時間確保が短くなってしまふ。

生徒・教職員からの アンケート分析 Check

生徒からのアンケート結果

- 先生の説明
- ペアやグループなどクラスメイトと交流...
- タブレットを利用したとき
- 家庭学習で自分で学習したとき
- その他の場面
- 「わかった」という場面はなかった

★学習内容が「わかった」というのは、どの場面ですか？



★学習内容が「興味深い」と感じたのは、どの場面ですか？

生徒・教職員のアンケートから

生徒

- 興味関心を持ち授業に参加することができる。

わからないことが調べられる。

他者の考え・意見が共有でき、違う視点で物事が考えられる。

教職員

- ICTを活用した授業力向上→授業に活気が生まれる。
- 記録が残せる→働き方改革につながる。

研究部の「3つの取組」

1. 全教職員がICT活用した授業展開を試みる
(チャレンジ+振り返りの共有)
2. 公開授業の充実(5月、11月、2月)
3. 研究発表会の実施：石井准教授をご講師として依頼し、さまざまな視点で学校と授業への評価・アドバイス・ご講評・ご講義を受ける

2. 公開授業の充実

・年に3回実施(5月、11月、2月)

- 必ず一人1回は実施する。
- 参加者はアドバイザーシートを作成・全教職員に共有

5月: 同じ教科での参観

11月: アンケートの実施

- 「授業者の立候補」と「参観したい授業(教師)の選択」

2月: アンケートの実施2

- 一度も授業を展開していない教員+「授業者の立候補」と「参観したい授業(教師)の選択」

研究部の「3つの取組」

1. **全教職員がICT活用した授業展開を試みる**
(チャレンジ+振り返りの共有)
2. **公開授業の充実**(5月、11月、2月)
3. **研究発表会の実施**: 石井准教授をご講師として依頼し、さまざまな視点で学校と授業への評価・アドバイス・ご講評・ご講義を受ける

3. 研究授業の実施

・12月に実施

- 講師を依頼、事前に学校訪問・授業参観
(評価十アドバイス)
- 学校・授業改善に向ける⇒研究授業に向ける(Plan)
- 各学年授業公開十研究授業の実施(Do)
- ご講評・ご講義を受ける(Check)
- 次の学校・授業改善に向ける(Action)



めとち

まとめ

八条中学校では「目指す生徒像」に向け、
全教職員が組織的にPDCAサイクルを活用
し、校内研究のレベルアップを図っている。

⇒ 全教職員、ITを活用した授業計画を実践し、振り返り、改善しよ
うとしている。

これからも、学校全体が組織的に

授業の計画(Plan) ⇒ 授業の実践(Do) ⇒
振り返り(Check) ⇒ 課題・問題解決(Action)

↑

「京都一、すべての子どもが夢中になって
学びあう授業づくり」

を目指す

「清聴
ありがとうございました」

京都市立中学校教育研究会「研究主任部会」会則

第1章 総 則

- (名称) 第1条 本部会は『京都市立中学校教育研究会「研究主任部会」』と称する。
- (目的) 第2条 本部会は京都市立中学校における学習指導全般に関する研究・研修を推進し、会員の資質向上を図り、本市教育の発展に寄与することを目的とする。
- (事業) 第3条 本部会は前条の目的を達成するために下記の事業を行う。
- (1) 学習指導及び校内・支部等における研修に関する調査研究。
 - (2) 研究会・支部研修会の開催。
 - (3) 研究物等の作成。
 - (4) その他目的達成のために必要な事業。

第2章 組 織

- (会員) 第4条 本部会は京都市立中学校・総合支援学校中学部の研究主任（研究担当）をもって構成する。ただし、部会長・副部会長についてはこの限りでない。
- (役員) 第5条 本部会に次の役員を置き任期は1年とする。ただし、再選はさまたげない。
- | | | | |
|----------|-----------|----------|------|
| (1) 部会長 | 1名 | (2) 副部会長 | 2～3名 |
| (3) 幹事長 | 1名 | (4) 副幹事長 | 1～2名 |
| (5) 庶務 | 1名 | (6) 会計 | 1名 |
| (7) 支部幹事 | 各支部より1名選出 | | |
- (選出) 第6条 役員選出は次のとおりとする。
- (1) 部会長・副部会長は幹事会において推挙し、総会で承認を得る。
 - (2) 幹事長・副幹事長・庶務・会計は部会長が委嘱し、総会で承認を得る。
- (任務) 第7条 役員の仕事は下記の通りとする。
- (1) 部会長は本部会を代表し、会務を総括する。
 - (2) 副部会長は会長を補佐し、部会長が不在の場合はその仕事を代行する。
 - (3) 幹事長は幹事会の会務を処理する。
 - (4) 副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長が不在の場合はその仕事を代行する。
 - (5) 庶務は本部会の庶務事項を処理する。
 - (6) 会計は会の会計全般を総括する。
 - (7) 支部幹事は支部研修や支部活動の推進にあたる。
- (機関) 第8条 本部会はその目的達成と会務の運営を図るため次の機関を置く。
- | | | |
|--------|---------|------------------|
| (1) 総会 | (2) 幹事会 | (3) 事務局（部会長校に置く） |
|--------|---------|------------------|

第3章 会 計

- (経費) 第9条 本部会の経費は会費・補助金・その他の収入をもってこれにあてる。
- (監査) 第10条 会計監査は総会で選出（1名以上）し、本部会の会計を監査する。
- (年度) 第11条 会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第4章 付 則

- (改正) 第12条 本部会の規約改正は総会の議決による。
- (参与) 第13条 本部会は顧問・参与を置くことができる。

令和5年度 中学校・総合支援学校 研究主任 名簿

1	北・上京支部	加茂川	西浦 誠人	35	山科・醍醐支部	山科	柴辻 優俊
2		西賀茂	信夫 規子	36		勸修	鈴木 遼
3		旭丘	井上 千尋	37		大宅	勝野久美子
4		衣笠	高橋公美子	38		安祥寺	谷口 遥香
5		烏丸	木村 一平	39		音羽	寺井 淳
6		上京	月城 優紀	40		花山	出野満里菜
7		嘉楽	須崎 徳馬	41		醍醐	辰巳 昌宏
8		二条	北川 晴香	42		春日丘	岡田 俊哉
9	中京支部	北野	土田 眞司	43	小栗栖	吉田 幸平	
10		朱雀	合田 智栄	44	栗陵	亀井 隆次	
11		京都御池	岡田智代子	45	蜂ヶ岡	宮嶋由紀子	
12		中京	和田 香織	46	太秦	永田 有紀	
13		松原	矢野 良地	47	嵯峨	高橋 正次	
14		西ノ京	加藤 葉	48	四条	細田 文子	
15		西京附属	田中 正仁	49	西京極	長谷川文彦	
16		洛風	渡辺千香子	50	梅津	永田 慶	
17	下京・南・東山支部	下京	和田 正裕	51	西院	西本 拓平	
18		七条	藤原 有佐	52	宕陰	森上亜希子	
19		洛友	城戸 美乃	53	双ヶ丘	野間 勇輝	
20		八条	桶作 浩子	54	京都京北	池内 理美	
21		九条	黒木 巧	55	桂	坂田 悠介	
22		洛南	福森 徹也	56	松尾	田村 知久	
23		凌風	池上 暁	57	桂川	八田 直美	
24		久世	種子 勇太	58	檜原	森岡 恵美	
25	開晴	元氏 宏輔	59	大枝	梶原 寿彦		
26	東山泉	月城 正登	60	洛西	高 彩子		
27	左京支部	岡崎	森川 美保	61	西陵	宅間 光晴	
28		高野	高橋 俊行	62	大原野	木下 愛実	
29		下鴨	山崎 遥	63	深草	須田 修功	
30		近衛	岡部 純	64	藤森	野川 幸恵	
31		修学院	佐藤 優行	65	桃山	岡田 円香	
32		洛北	加納 由美	66	伏見	波多野好美	
33		大原	丸田 信宏	67	神川	望月 悟	
34		花背	坂本 旭	68	桃陵	細野 健太	
				69	向島秀蓮	越田 友喜	
				70	向島東	中島 朋哉	
				71	洛水	佐田 朱見	
				72	大淀	高橋真理子	
				73	総合支援学校	北総合	巖 早紀
				74		鳴滝総合	木村 和弘
				75		東総合	末吉 勝洋
				76		西総合	小野 正統
				77		呉竹総合	吉田由美夏
				78		桃陽総合	下村 亮子